

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
北海道	岩見沢市立広陵中学校	子供と教職員の自己有用感を向上させる学校づくり ～「Well Being」を実現する学校マネジメント～	【成果と課題】 リーダー分散型連携組織マネジメントにより、小中学校の枠を取り払った開かれた学校経営から、目的達成型の組織を構築することで、子どもが主人公となる取組を徹底して実践することができた。その成果は、子供の自己有用感を予想以上に向上させるだけではなく、教職員の自己有用感やチーム効力感も引き上げる結果となった。 校長として最も大切にしたいことは、「信頼」することと「感謝」すること。サーバント型リーダーシップに徹することで「どんな学校を創りたい？」を教職員とWin-Winの関係で追求したことである。 今後の課題は、取組を持続可能にすることであり、当事者意識を如何に維持するかが課題であると考えている。究極は管理しない学校を目指すことであり、自走できる同僚性の高い組織の構築には、更なる次の一手が望まれるところである。
北海道	浦河町立荻伏小学校	夢いっぱい自ら学び未来を拓く児童の育成 ～地域の人材を生かし、教科との関連を明らかにした総合的な学習の実践～	【成果】 荻伏小学校では、総合的な学習の時間のテーマとして、3年生「地域の水産業」4年生「地域の馬産業」、5年生「地域の農業」、6年生「地域の文化や歴史」というように探究課題が明確になっている。それぞれが地域に根ざしたテーマとなっており、地域と共に子どもを育むことができている。また、総合的な学習の時間と各教科との相互の関わりを意識した年間指導計画を作成し、取り組むことができている。 【課題】 学習の成果の継承が課題となっている。今年度の学習成果の上に更に探究活動が実施されれば、より深い探究活動になると考えている。その為、探究の成果を校内に掲示し、次年度も自由に見えるようにしていく。
北海道	上士幌町立上士幌小学校	「自分で考え、自分で決めて、自分で行動する児童」の育成を目指して ～SDGs推進地域における持続可能な社会の創り手を育てるための探究的な学習を通して～	1 研究成果 ・SDGsに係る学習を教育課程に位置付けたことにより、児童アンケートから「給食を残さないようにしたい」「普段から電気や水を大切に使おうと思う」など、自分たちでできることに取組もうという意識の芽生えが見られ、本町で推進しているSDGsの取組を身近なものとして感じる児童が増えていると感じる。 ・SDGsに係る学習を探究的な過程で取り組むことを通して、子どもたちが自身で課題を見付け、調べ学習を進めるとともに資料を整理・分析し、スライド等にまとめて発表することができるようになったと考えられる。 ・SDGsに係る学習を通して、地域の様々な講師から地域のことを教えてもらったり、地域の課題知り、解決の方策を考えたりすることにより、全国学力・学習状況調査児童質問紙において「地域をよくするために何をすべきか考える」と回答した児童の割合が高くなった。 2 今後の課題 ・事後アンケートから、SDGsに係る学習と実生活が結び通っていない児童が一定数見られることから、課題を自分の問題として捉えられるよう指導の工夫が必要です。
北海道	上士幌町立上士幌中学校	SDGsを自分ごととしてとらえる生徒の育成 ～総合的な学習の時間を中心としたSDGsを学ぶ授業～	成果としては、総合的な学習の時間を中心にSDGsを学ぶことにより、今まで理解が浅かった生徒は今まで以上に深めることができ、理解が進んでいた生徒も新たな気付きを得ることができていることである。中には「無駄なエネルギーを消費しない」「日頃から物を大切に扱う」「お互いの違いを認め協力する」「ボランティア活動に参加する」「情報発信を行う」等を意識できるようになり、実際に行動している生徒も見受けられた。今後の課題としては、今年度から本校の分掌の一つである研修部にSDGsのポストを新設し、主たる担当教員が異動したとしても継続的に取り組める体制にしたが、いかに継続的に学校として取り組んでいくかが課題である。
山形	米沢市立第六中学校	みんなやさしい教育デジタルトランスフォーメーションの推進を目指して ～教職員のICT活用力育成と業務サポートを目指すクラウド環境整備～	【研究の成果】 ○教職員限定のポータルサイトを作成し、出張予定や生徒欠席連絡を確認できるようにした。いつでも、どこでも、セキュアな環境でポータルサイトを利用でき、教職員の利用が定着した。 ○Googleフォームによる欠席連絡システムによって、朝の欠席電話連絡が減り、教職員の業務負担軽減と欠席生徒の確実な把握につながった。欠席連絡システムの利用は保護者からも高評価である。 ○やさしいICT活用から始めたが、ICTに慣れると教職員連絡システムやペーパーレス資料など、様々な活用アイデアが提案された。「一人の百歩より、全員の一步」を目指し、「だれでも、無理なく、毎日使えること」を実践したことで、デジタルトランスフォーメーションが推進されたと思われる。
山形	東根市立神町小学校	深く考え、表現できる子供の育成 ～3つの対話を通して、資質・能力を育む国語科の授業を中核として～	本校が所在する地域が、全国屈指のさくらんぼ産地である。学校のシンボルとして、また教育課程での活用をめざし、さくらんぼの成木を植樹した。植樹、生育に関しては、地域の方々の全面的な協力をいただいた。植樹当初は順調に生育し、初年度はたくさん結実し、3学年の総合的な学習での体験学習に生かすことができた。本校の地域学習や地域の特色を学ぶ教材としての活用を期待した。 その後、樹勢が弱く結実が少ない状態になってしまい、さくらんぼ樹木の引き続き、教育課程で活用するために、ポット栽培の環境を整備することにした。地域の農業士やPTA、協力団体の協力を得ながら、ポット栽培の環境を整え、次年度以降の体験学習に活用できるようにした。 さくらんぼをポット栽培することで、子供たちが学校のシンボルをより身近に感じ、生育の過程も教材として活用できるようになる。地域の特色を体験できる素晴らしい教材となっていく。

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
山形	東根市立大富小学校	「学びをつなぐ子供」の育成 ～「つながり」を豊かにする校内研究の工夫を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要感のある問題場面の設定や、思考を揺さぶる課題提示、存分に試行錯誤できる教具の準備などにより、子どもたちが考えることを楽しむ姿が引き出され、子どもたちに課題を見出す力や既習を活かそうとする力が育ってきた。</li> <li>○ ICTの利点を見極めた効果的な使い方が実践され、より多くの仲間とつながり、多様な考えがもてるようになっていく。また、学びのスタイルを子ども自身が選択することができるようになり、自発的な交流が生まれてきた</li> <li>○ 振り返りの視点を与えることで、自己の成長や仲間とつながるよさを感じさせることができた。</li> <li>○ 「つなぐ自学」に全校で取り組んだことで、授業から家庭学習へ学びが広がっている。</li> </ul>
山形	酒田市立若浜小学校	主体的に解決し合う力を育てる学校経営の展開 ～「探究的な解決サイクル」をすべての教育活動に取り入れた学びづくり～	<p>&lt;研究の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善及び教育活動設定アプローチとして、全教育活動に「探究的な解決サイクル」の要素を必ず盛り込む方策を取ることで、「自発的探究的に解決する力」と「よりよく生きようとするプライド」を高めることができた。</li> <li>・「探究的な解決サイクル」の4段階として、①自らの現状を深く見つめ、課題を自分ごととしてとらえる ②解決策を打ち出し、つながり合いながら、最適解を探る ③解決の仕方をふり返り、他の場面に適応させる ④探り出した事柄を交流・伝達していく が根付いてきた。</li> <li>・生活全般に渡り、子どもたちの思考の質の改善となって表れてきた。また、子どもたちの前向きな姿勢や自発的な善行動が多くなるとともに、自治的な気運と秩序の高まりが校内に広がってきている。</li> </ul>
福島	いわき市立磐崎小学校	対話的な造形活動を通し、つくりだす喜びを味わい、自分の思いを豊かに表現できる授業の展開 ～発見～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究授業を1・4・5年生で実施、要請訪問を2・3・6年生で実施することができ、全ての学年で研究授業を行うことができた。</li> <li>○造形遊び・絵や立体・工作に表すと様々な領域を研究授業で取り上げることができた。</li> <li>○「授業展開の工夫・鑑賞活動の工夫・評価の工夫」の3つ観点から手立てを講じたことで、対話的な造形活動を通し、つくりだす喜びを味わい、自分の思いを豊かに表現できる授業を展開することができた。</li> <li>●立体作品の展示があまりできなかったため、限られた場所でどう展示するか、今後も検討していく。</li> <li>●評価については、子ども達のよさに目を向けた研修をしていったが、ワークシートやポートフォリオなどまだまだ研究していく要素があるので、より適正な評価の在り方を引き続き研究していく。</li> </ul>
茨城	潮来市立延方小学校	共に学び、よりよく課題を解決しようとする態度を育てる学習指導の在り方 ～教科等横断的な学習指導と言語能力の育成を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語能力の育成を図り、自分の考えを形成する力の向上を図ることで、自分の考えを伝えようとするようになった。</li> <li>・他者と交流し、異なる意見を受け止め・活かそうとする力の育成を図ることで、粘り強く課題を解決しようとするようになった。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科・総合的な学習の時間の特性を活かして人間関係調整能力の育成を図ることは、児童に新たな視点をもたらす、協働することの有用性を実感させることができた。今後、この成果をどのように継続させていくかを検討する必要がある。</li> <li>・単元計画表作成において地域資源について再調査し、連絡調整を行った。どの体験活動も調べ学習だけでは得られない『実感の伴った学び』となった。次年度以降も地域資源について適宜再調査し、より充実した体験活動が行われるようにしたい。</li> </ul>
群馬	群馬県立伊勢崎高等学校	エージェンシーを発揮する自律した学習者の育成を目指して ～非認知能力を伸ばす課題解決型の探究活動～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が取り組む探究活動「iTanQ」の探究交流イベントを3月29日(土)に実施し、県内外の高校生、中学生、教員及び一般人らオンラインも含めて約150人が参加した。午前の部では、本校の生徒・教員がこれまで取り組んできた探究活動の発表や、社会課題をテーマとしたグループディスカッションを行い、午後の部では、iTanQスクール(上野ゼミ)の開校式を実施し、入学した県内外の中高生ら17名が抱負を述べた。さらに、東京大学名誉教授の上野千鶴子氏による「探究は何のため? 問いを立てるってどんなこと?」をテーマとした基調講演、慶応義塾大学准教授の井本由紀氏によるSEL(社会情動的学習)に関する講演会も実施した。</li> <li>・学校や世代を超えた交流となり、参加者一人一人が深く社会課題について考える貴重な機会となった。また、本校の特色である探究活動「iTanQ」がさらに広く周知されるきっかけとなった。</li> </ul>
群馬	高崎市立八幡小学校	個別最適な学びと協働的な学びの実現 ～単元内自由進度学習の実践を通して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が意欲をもって、楽しそうに学習に取り組めた。</li> <li>・児童が主体的に学習を調整でき、見通しをもって計画的に学習を進めたり、学習に応じて一人でするか友達と協力するか選んだり、さらに進んだ課題に取り組んだりできた。</li> <li>・授業中は教員が机間指導にまわられたので、苦手な児童を支援できた。</li> <li>・校内研修やメンターでお互い実践したことを共有することができた。</li> </ul> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が単元内自由進度学習に合っている単元か見極め、その学習にあつたためあてや支援、環境整備の仕方を考え、それを事前に用意する必要がある。また、これらの準備もこれまでの指導とは視点を変える必要があり、組織的・計画的な研修・準備・実践・蓄積が必要である。</li> <li>・自由で主体的な学習と正確で確実な学習の定着を両立させる必要がある。</li> </ul>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	さいたま市立大宮北小学校	地域との「関わり」を重視した学校づくりに向けて ～北っ子に地域への愛着や誇りを育む、学校を核とした連携・協働の取組～	<p>主要な研究成果 (成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールを実施(学校運営協議会を設置)したことで、学校においては教育を学校だけで担うという意識が薄れてきた。</li> <li>・育てたい子ども像や教育について、学校、家庭、地域が話し合う場を従来以上にもったことにより、共通理解が進み、三位一体となって子どもたちの教育を進める気運を高めることができた。</li> <li>・地域人材の活用を図ることで、保護者、地域を巻き込んだ「カリキュラムマネジメント」の確立に近づけることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の役割として「新たな地域社会の創造」「持続可能な地域社会の構築」を全て果たさなくてはならないとすれば、役割として大変大きなものであり、役割を十分に果たそうとすれば無理が生じてしまう。</li> <li>・教育や学校は、地域社会の一部として機能するという考えに立って果たさなくてはならない役割を考えていくことが望ましい。</li> </ul>
埼玉	川口市立安行小学校	安行地域の伝統を守り自ら地域と関わる児童の育成 ～コロナ禍を経ての「安行原の蛇造り」授業を通して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも地域の伝統行事「安行原の蛇造り」の授業を継続することができた。</li> <li>・授業の継続が蛇造り保存会の方々への励まし、応援になった。</li> <li>・授業で作成したポスターや新聞を公民館に掲示することで、子ども達の発信の手ごたえを実感するとともに、地域の関心を高めることができた。</li> <li>・5年生の総合で育てた稲から獲れた稲わらをわら蛇の材料として提供できた。5年生に進級して米作りを通して蛇造りに関われるというサイクルができた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「安行はひとつ」という言葉が地域では言い伝えられている。この言葉通り、「安行原蛇造り」の授業をさらに地域との関連で深めていきたい。</li> </ul>
埼玉	川越市立武蔵野小学校	様々な危機への対応と未然防止の体制づくり ～教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり～	<p>研究の成果○・今後の課題☆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自傷行為や自殺願望の心配のある児童への安全対策を環境面で徹底することができた。</li> <li>○命の大切さを自分事としてしっかり児童一人一人に認識できるように、教職員が指導を継続することができた。</li> <li>○校内での情報伝達を円滑にし、些細なことを全員が情報共有し、対策や未然防止策について常に全職員で考えるようになった。</li> <li>○学校全体で高い危機管理能力を持つ組織・体制をつくり、それを維持していこうとする意識が教職員間で向上した。</li> <li>○全職員が常に危機意識を持ち、少しの違和感や、些細な児童や職員の変化に気づけるように意識改革を図ることができた。</li> </ul> <p>☆精神的に不安定な児童へと支援を必要とする家庭への関係機関との協力体制の更なる充実を図ることが喫緊の課題である。</p>
埼玉	日高市立高麗小学校	学校づくり・人づくりを推進するための学校評価・教職員人事評価の工夫 ～教職員一人一人の資質・能力の一層の向上を目指して～	<p>【研究の成果と課題】</p> <p>【成果】</p> <p>計画的に人事評価を行うことで、教員の思いや日々の教育活動を管理職が適切に捉え、一人一人を大切にしながら経験年数や職場内での状況等を踏まえた個別の指導助言・支援をすることができた。</p> <p>また、人事評価の目標の達成する指標を学校評価の保護者や児童の評価を取り入れることで、学校経営方針と各自の取組が関連し円滑な学校経営を行うことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>人事評価制度については、ねらいや有用性についての理解を深め、マンネリ化しないように前向きに取り組めるようにしていく必要がある。</p> <p>また、学校評価と人事評価制度の関連性を教職員へより周知させることにより、評価結果を学校づくりと一人一人の資質能力の向上の両面からの効果が出るように活用していく必要がある。</p>
埼玉	東松山市立松山第一小学校	児童の読解力と教師の授業力を育成するための研究 ～質の高い授業の継続をめざして～	<ul style="list-style-type: none"> <li>●質の高い授業を継続するために、国語科の指導を積み重ねてきた。成果は以下のとおりである。</li> </ul> <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文の授業の過程を定めることで、経験年数や教科指導の得手不得手にかかわらず、安定した指導を積み重ねることができた。</li> <li>・授業改善のポイントとして、学習課題の内容、感想の書かせ方、授業の中での書く場面の効果的な活用、コーディネーターとしての教師の役割などについて全教員が共有し、授業実践を進めることができた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを効果的に活用した授業実践を進めていくことが急務である。</li> <li>・指導方法を共有することは必須であるが、教員一人一人の指導力とのバランスを十分に検討することが大切である。</li> </ul>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	寄居町立用土小学校	主体的・対話的で深い学びを拓く授業改善 ～既習を活用し、表現できる児童の育成を目指して～	<p>【成果と課題】</p> <p>1. 授業者の授業改善について</p> <p>【系統性】について</p> <p>○成果物として「単元系統のまとめ」を作成し、授業設計や既習を意識した導入や発問を意図的に行うことができるようになった。(授業者アンケートで4.1に意識が改善)</p> <p>○本時において身につけさせたい数学的な表現を理解し系統性を意識して授業設計ができるようになった。(＊授業者アンケートで4.0に意識が改善)</p> <p>【発問・学習過程】について</p> <p>○シン・授業デザインシートの活用や工夫した研究協議を通して授業の「しかけ」アイデアを共有することができ、発問や学習過程の工夫につながった。(＊授業者アンケートで4.1に意識が改善)</p> <p>○「つなぎタイム」を意図的に計画することで児童の思考をつなぐ発問を展開できるようになった。(＊授業者アンケートで3.9に意識が改善)</p> <p>2. 成果について</p> <p>○課題であった「測定」領域、「図形」領域の得点率が改善した。(埼玉県学力・学習状況調査)また、それと関連し、児童の苦手意識も改善した。</p> <p>○授業中における児童の発言やノート記述において、数学的な表現が以前より増えた。</p> <p>○算数の授業が好きと前向きに答えた児童が増えた。</p> <p>3. 課題について</p> <p>●学力は比較的身につけているものの、非認知能力が低下している(崔為学力・学習状況調査)。今後は、児童の「自己効力感」が実感として感じられるようにするためには、どのように授業改善を図ればよいか、検討を進めたい。</p>
埼玉	越谷市立蒲生小学校	自信をもって生き生きと活動する児童の育成 ～9年間を通すカリキュラムによる生きる力を育む指導方法の研究～	<p>【研究主題の主要な研究成果】</p> <p>小中一貫校教育の中で9年間を通したカリキュラムを意識した総合的な学習の時間を通して、自分でいろいろなことを考慮して判断する力が着実についてきていることを実感している。特に、自己肯定感に関する評価項目では、高い数値を出している。異学年との活動や中学生との交流、社会の様々な人との交流を通して、学ぶことの楽しさを実感している様子が見られる。また、多くのボランティア活動に取り組むことで、人の役に立つことのすばらしさに気付く児童も増え、様々なことに積極的に関わろうとする児童が増えてきている。自分達が取り組んだことが他の人々の役に立つという経験を総合的な学習の時間の中で経験することで、自己肯定感を上げることができ、学ぶことの意味を実感している。教員や地域の方々にとっても懐っこい児童が増え、自分を表現することの楽しさも感じている。そのため中学進学後も、積極的に生徒会活動に参加する生徒も増えてきている。</p> <p>課題としては、ゲストティーチャー招聘の継続性と社会に関わらせることでの地域連携の課題である。「ギブ」と「テイク」の関係性を如何に理解してもらい、継続的な取組にしていけるかにある。一方的に協力を依頼する関係は長く続かない。「学校の授業に参加すると大きな効果がある」ことを相手に実感してもらえることが重要である。今後も教育活動のねらいを児童やゲストティーチャーと共有し、児童一人一人に力をつける授業づくりを進めていきたい。</p>
埼玉	三郷市立戸ヶ崎小学校	子供たちに力をつける教育活動の仕組みづくり ～校内課題研究の実践を通して～	<p>研究の成果</p> <p>(1) 視点を定めた理論研究より</p> <p>○あいまいな理解であった理論や考え方、用語(省察、実践知、学問知、授業観、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、新しい時代に必要な資質・能力、認知スキル、社会スキル、21世紀型能力、アクティブ・ラーナー・・・)などを整理し、その内容を共有化することができた。</p> <p>(2) 校内課題研究の実践より</p> <p>○一人一研究授業の実践により、「省察」→「実践知」+「学問知」→「望ましい課題研究」の流れが確立し、教師の授業観が磨かれるとともに、これらを踏まえた一人一研究授業の実践により授業力が向上し、安定した学級経営が実現している。</p>
埼玉	三郷市立八木郷小学校	主体的に学び合いながら体力を高める活力のある子の育成 ～分かる・関わる・たくさん動けるをできる・伸びる楽しさに深めていく授業～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八木郷スタンダードを活用し、若手教員も安心して授業に取り組むことができた。</li> <li>・本校の体育や学級活動の学習の方向性を年度当初に示し研究授業を積み重ねることで、授業内容の工夫、運動量の確保や自分の力を伸ばすための場の選択をさせることができた。</li> <li>・鉄棒教室やわくわくデリバリー教室、オリンピック・パラリンピックに関する活動等、運動や健康に関する取組を数多く実践し、児童の意欲の向上や意識の変容につながることができた。</li> <li>・今年度は特に走力と投力に課題があることを念頭に、すこやかタイム(朝の全校運動)や運動委員会の活動に取り組んだ結果、2回目の体力テストでは、ほぼ全ての種目について体力の向上が見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な取組を通して、子供たちへの運動への意欲を高めることができた。それらを継続させ、運動の習慣化・生活化を図っていく必要がある。</li> <li>・気温や天候等に応じ、対策を講じながら室内でも体力の向上が図れるよう、授業やすこやかタイムの内容の工夫が必要である。</li> <li>・学級活動や委員会、休み時間や放課後などの時間に自発的に運動に取り組む意欲を継続的に高めていきたい。</li> </ul>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	印西市立原山小学校	小学校高学年児童の学習における対話型生成AIの活用とその意識の変化	<p>成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校段階から生成AIに触れ、ハルシネーションが起こることやファクトチェックが重要であることを学ぶ機会は意義があった。</li> <li>・生成AIについて学ぶことで、児童は有用性と利便性、留意点と危険を同時に知ることができた。興味関心を高めつつ慎重に利用する態度が身についたと捉える。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時には専門家の支援や助言を受けることが望ましいが、全ての学校でそのような環境下で学習することは難しい。</li> <li>・小学校段階で生成AIを使用することに様々な意見がある。学校向けのガイドラインは作成されたが、生成AIとの望ましい関わり方について都道府県または国レベルで発信をし、社会のコンセンサスを得る努力をしてほしいと考える。</li> </ul>
千葉	千葉市立都賀小学校	自分の考えを大切に、進んで伝え合う子どもの育成 ～かかわり合いを核にした道徳科・理科教育を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の空気の体積変化の学習では、導入時に空気の温度変化による膨張や収縮が可視化される実験を行うことで、子どもたちが空気の体積変化に目を向け、問題意識をもって実験に取り組むことができた。また、子どもたちが考えた多様な実験を行うことができるように教材・教具を用意したことで、子どもの思考に沿った単元構成を実現することができた。</li> <li>・生活科の学習では、秋の自然の素材を使ったおもちゃ作りを通して、「秋の自然物を使ったおもちゃを創り出し、友達と楽しもうとする」態度を養うことができた。子どもが真剣に問題に向き合う姿、事象に感動する姿、新たな問題を見つける姿が自然と見られた。</li> </ul> <p>【研究の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科では、子どもの思考に合わせて単元を構成したつもりでも、子どもが「確かめたい」という思いを抱き、単元を通して問題意識を持つことができないことがあった。</li> <li>・生活科では、個々の生活体験に差があり、思いや願い、またその実現に向けての解決方法も一人一人異なり、全てを見取ることが難しかった。</li> </ul>
千葉	茂原市立中の島小学校	「ふるさと茂原」の自然や文化を愛し、社会に貢献しようとする児童の育成 ～ふるさと学習「茂原学」の充実を目指して～	<p>研究の成果と課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲストティーチャーを効果的に活用することで、茂原市や地域に対して興味や関心をもち、自ら考える際の手立てとなった。</li> <li>○ ICTを活用し、他校と交流することで、児童の意欲が高まり、目的意識をもって学習に取り組むことができた。また、わかりやすい発表の工夫にもつながった。</li> <li>○ 「まちの先生リスト」を効果的に使用することで、ゲストティーチャーの活用が全学年で行うことができ、児童の理解が深まった。</li> </ul> <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域に対する愛着をさらに深めるためには、どんな働きかけが効果的なのか、今後も練っていきたい。</li> <li>● 教科等横断的に学習を進められるように、今後も継続してカリキュラムマネジメントを行っていきたい。</li> </ul>
千葉	千葉県立下総高等学校	地域の中で子どもたちを育む学校づくり ～コミュニティ・スクール導入から2年間で何ができたか？～	<p>令和4年度にコミュニティ・スクールの制度を導入し、委員の尽力と、職員の協力で、地域の中で生徒が活躍する機会が倍増した。新しい制度の導入はとかく抵抗感を感じがちだが、やってみると地域に出た生徒たちは、いい表情で頑張っている。小中学校や特別支援学校との交流でも、相手のことを思って行動する。活動の中で、生徒たちはコミュニケーション能力や自己有用感などの非認知能力を伸ばしてくれたと思う。委員の力で学校宣伝のチラシをつくってくれて、志願者増加に向けて応援してくれた。生徒たちが地域で活動することで、地域もきっと元気になるはず。やりたいことができた、と喜ぶ職員もいる。導入から2年間で何ができたか？</p>
千葉	我孫子市立布佐南小学校	心豊かで実践力のある子の育成(特別活動の充実、小中一貫教育の実現) ～学校キャラクターの作成・活用を通して～	<p>○主要な研究成果</p> <p>本教育活動は、児童会が中心となって始まった教育活動である。本校の教育目標や合言葉、児童の願いや夢を込めることで、教育的効果の高い教育活動を実践することができた。学校キャラクター「けっきー」の作成過程において、児童や教職員が学校教育目標を見つめ直し生み出したことが、結果、保護者や地域、児童、教職員が学校に愛着や所属感、安心感を抱くことにつながった。このような成果が、学校評価の数値を向上させた要因の一つと考える。今後の課題としては、活動を維持し、より良い活動に刷新していくかである。「けっきー」に込められた「笑顔」、「活気」、「やってみよう」を大切に、新たな取り組みを企画・実践できるようにしていきたい。</p>
千葉	松戸市立第一中学校みらい分校	学びのセーフティネットの充実を目指した教育課程と支援体制 ～新しい時代の新しい夜間中学 みらい分校開校から5年間の実践～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい時代の新しい夜間中学として、開校から5年間の取組みを生徒の活動の記録や学校評価アンケートの経年変化と照らし合わせて省察したことにより、本校の教育課程と支援体制に関する成果と課題が明らかになった。</li> <li>・今後、学びのセーフティネットである公立夜間中学としての役割を、さらに果たしていくため、これからの学校づくりや授業づくりの視点を獲得することができた。</li> <li>・開校以来、新しい夜間中学としての文化を作り上げてきた卒業生や教職員の思いを、現在の教職員が知ることとなった。次の5年間を見据えて、これからの学校づくりへの教職員の参画意識が高まったことは大きな成果である。</li> </ul>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	銚子市立春日小学校	児童の学習意欲が持続する授業の工夫 ～ICTの効果的な活用を通して～	<p>&lt; 研究実践の成果と課題 &gt;</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に応じたアプリケーションを活用することができた。</li> <li>・教材を大型テレビやタブレットに映し出すことで、児童に分かりやすく提示することができた。</li> <li>・映像教材や資料を児童に配付することで、各自の学習進度や個性に合わせた個別最適な学びにつなげることができた。</li> <li>・資料提示の仕方を工夫して発問することで、児童の調べたい、学習したいという意欲の高まりが見られた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの教科で効果的なICT活用ができる実践を積み重ねる必要がある。</li> <li>・本研究で活用したアプリケーションやツールをどの教員も実践できるよう、研修を通して年間計画と照らし合わせながら活用方法を検討する必要がある。</li> <li>・学習意欲の持続が達成できるように、単発的なICT活用ではなく、より有効な手立てを研究していく必要がある。</li> </ul>
千葉	袖ヶ浦市立根形中学校	地域と連携して生徒を育てる根形の学校教育	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この研究は長年にわたって継続した取組である。この研究を通じて、地域に愛着や誇りを持っていることが生徒の感想からわかる。また、毎年、成人となった方が、中学校に学校生活に必要なものを寄付してくださっている。これも自分たちができる地域への恩返しの一つになっている。</li> <li>・子ども議会での生徒会長の発表は、市内中学校5校で人権について考 える場が必要であるという提案内容であった。この考えに市長や教育長が賛同していただいたお陰で実現することができた。自分の学校だけでなく市内中学校がつながってこうという考えをもち、発信し、実現できたことは、この研究の成果があったと考えられる。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がこんな活動をしてみたいと主体的に活動計画を考え、教職員がサポートできる体制を目指したい。</li> </ul>
東京	武蔵野市立第一小学校	主体的に学ぶ児童の育成 ～国語科における深い学びの実現を目指した学習過程の工夫を通して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ラーニングマウンテンという手法の活用が校内で定着した。</li> <li>◎教師のラーニングマウンテンへの理解が深まった。</li> <li>◎教師の指導に対する意識が変容した。</li> <li>◎モデリングという手法の有効性が理解できた。</li> <li>◎見通しをもって学習する児童が増えた。</li> <li>◎児童の既習事項を活用する意識が向上した。</li> </ul> <p>研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎研究主題に関する定義や児童像の明確化が十分ではなかった。</li> <li>◎研究結果を数値化できなかった。</li> <li>◎今年度の学びを来年度も活用していくこと。</li> <li>◎さらなるラーニングマウンテンの活用について、研究を深めていくこと。</li> </ul>
東京	狛江市立狛江第一小学校	はてなを楽しみ、主体的に追究する子供の育成 ～持続可能な社会の創り手を育むための問題解決学習の充実～	<p>成果</p> <p>学習への主体性を測るアンケート項目や、他者との協働の意識を測ったアンケート項目では、9割前後の子供から肯定的な回答が得られた。振り返りによる学びの深まりを実感した子供の割合も9割近くまで上昇していた。答えが多様にある問いを子供が主体となって、必要に応じて他者と協働しながら問題解決的に追究したり、探究の過程で振り返りを重視して学びに連続性をもたせたりしていったことの成果であると考えられる。</p> <p>課題</p> <p>すすんで自分の考えを発信しようとする態度を測る本項目については、抵抗感を抱いている子供が依然として多くいる現状が明らかになった。個の学びに自信をもてず、誰かに頼る傾向が強い子供が多くいることがその背景にあると考えられる。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
東京	武蔵野市立第二小学校	児童が協働して学び、考えを深める授業づくり ～小学校算数科の実践を通して～	<p>今年度本校では、「学校風土調査」を生かした学校教育の充実について研究を進めた。来年度も今年度の成果と課題を踏まえ、研究を充実させることで、子どもたちが安心して学べる学校づくりに繋げる。</p> <p>成果 ○学校生活の中で、一人一人の違いを大切にされていると感じている児童が増えた。 ○児童と教師の信頼関係に関する調査項目について、児童の肯定的な評価が安定している。⇒児童の安心につながる土台となっている。</p> <p>課題 ●学級のみinnでやり遂げる達成感や友達と一緒に活動する楽しさを実感できていない児童がいる。⇒児童同士の豊かなかかわりを増やす。 ●学校や学級の様々なきまりについて、児童がなぜそのきまりが必要か理解できていないものがある。⇒校内のきまりについて児童と見直す。教師間で指導を揃える。</p>
東京	武蔵野市立第四小学校	自信を高めて、主体的に取り組む子の育成 ～認め合う心を育むことを通して～	<p>【研究成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自尊感情測定尺度(東京都版)」を活用し、様々な教科等で児童の自尊感情の傾向を把握しながら授業を行うことを通して、互いを認め合う「安心して活動できる環境」をつくることができ、児童一人一人に応じた学びを支援、よりよい学びの集団をつくることができた。</li> <li>・児童が自ら考えたことを自己選択・自己決定しながら実現できるよう、児童のよさを価値付ける声掛けを意図的に行うことを通して、意欲を高め、自信をもって行動できる児童を育てることができた。</li> <li>・様々な人と関わる学習活動を年間指導計画に位置付け、意図的・計画的に実施することを通して、様々な人の価値観に触れ、自分の考え方や生き方を見つめ直すことができ、他者を理解し、多様なものの見方をもたせることができた。</li> </ul>
東京	町田市立鶴川第二小学校	子どもが主体的に学ぶ体育学習 ～伝え合い活動を通して～	<p>2 成果と課題 今年度は、児童が主体的に学ぶために大切なことについて、児童の「伝え合い」に視点を当て、児童の活動の感じ方や分かり方を協働して学ぶ場を創ろうと指導の工夫を行ってきた。そのためにも、体育科の指導の基本を確認しながら研究を進めた。</p> <p>(1) 成果 ・教師の問い返しやグループ編成、作戦ボードの工夫等を行うことで、児童が自然に友達と対話したいと思うような場面を設定することができた。 ・児童が「やってみよう」という気持ちをもてる運動となるような教材開発につながった。 ・授業改善を通して、ねらいの明確につながった。</p> <p>(2) 課題 ・指導が、教師主導になっている傾向がある。児童が自らルールを工夫するなどの学び方を指導するまでには至らなかった。学年に応じた技能のポイントなどの指導方法についても研究を続けていく必要がある。そのためにも、研究を次年度も継続していく。</p>
神奈川	川崎市立東門前小学校	既習事項を生かして、問題解決しようとする子の育成 ～「分かった」「できた」が実感できる授業を目指して～	<p>R6校内研究 成果と課題</p> <p>○ 成果 ●既習事項の活用 既習事項を授業に組み込み、次の学習に生かせるように意識して授業を進めた。特に数直線や図を使うことを意識して指導することで、児童が課題解決に使っている姿が見られた。 ●協働学習の促進による児童の考える力の育成 児童同士で意見交換を行い、教え合う環境を作ることで、自発的な学びを促進した。また、グループ活動や自由に移動し交流できる時間を設けることで、児童が自分の考えをノートに書く姿が見られた。 ●振り返りと自己評価の実施 授業後に振り返りを行い、学んだことや、次回に生かせることを確認する機会を設けた。算数以外の教科でも、児童は学びの進捗を実感できてきた。 ●指導の改善と工夫 子どもの言葉を使って課題づくりやまとめをした。また、児童の反応を見ながら授業を進めた。年度の途中からは、児童の思考を深めるような教師の問い返しを意識して実践を続けた。 ●具体物や視覚的支援の活用 具体物や図を積極的に使用した。視覚的に理解を深めたり、課題への意欲を高めたりできた。特に苦手意識をもつ児童への支援が効果的だった。</p> <p>○ 課題 ●授業の進行時間の調整 時間内に授業を終わらせることを優先し、児童の理解が不十分なまま進めてしまう場面があった。その時間の中で重きを置く活動に時間配分すること、また、単元を通して繰り返し指導するという考え方に意識を変える必要がある。 ●子どもの多様な考えに対応する方法 予想外のつまづきや考え方に柔軟に対応するために、教師の問い返しや支援方法をより明確にする必要がある。</p> <p>○ まとめ 授業では、既習事項の活用や数直線・図の使用により児童の理解を深め、わかりやすく説明することで協働学習を促進した。課題やまとめを子どもと一緒に作り、授業後に学習したことを振り返ることで、指導の柔軟性を高めるように努めた。また、授業で具体物を扱ったり、ICTを活用して視覚的支援をしたりしたことが効果的で、特に苦手な児童への支援に有効だった。一方で、授業時間の調整が課題だった。その時間だけでは児童の理解が不十分でも、単元を通して繰り返し指導して身に付けられるように指導したり、児童の多様な考えに対応するため、教師の問い返しや、支援方法をさらに幅広く学んだりする必要があった。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川	相模原市立宮上小学校	多層的な学校経営を意識して ～当たり前の取組の積み重ねで安心できる学校に～	<p>取組を進める中で、機能する教職員集団、いわゆる「チーム学校」に近づいてきた。機能する教職員集団作りを目指して取り組んできたことで、徐々にではあるが様々な成果を見せ始めている。</p> <p>1. 子どもの変容 「ポジティブ行動支援」の取組が進んでいる。各教員が地道に繰り返し行ったことで、子どもと教員との間に信頼感が生まれ、不登校だった子どもが登校し出した例がみられた。また、子どもを取り巻く様々な状況に応じて、適切に支援をしていく校内体制の構築が進んでいる。 縦割り班活動によって、特に高学年の自己肯定感が高まってきている。また、中学年においては、高学年の姿が一つの指標になっており、次のリーダー育成のプロセスが描きやすくなった。これが本校の伝統として根付いていくようにしていきたい。</p> <p>2. 保護者・地域の変容 多層的に各取組をコミュニティ・スクールの枠にマッチさせて進めてきたことで、保護者・地域の学校教育への協力の輪が徐々に広がっている。日常の教育活動の中で、ボランティアとして学校支援に参加した保護者・地域の人たちの学校理解が進み、参加者が日に日に増加していることも成果であった。</p> <p>3. 教職員の変容 ・これまでの取組成果の1つとして、教職員一人ひとりが、子どもたちの自己肯定感の高まりを実感できたことが挙げられる。日々の学校生活の中で、子どもたちの学びに向かう姿勢や他者との関わりに変化が見え始めたことで、教職員の取組に対するモチベーションが上がり、結果として良いスパイラルに入っていると感じている。特に、特別活動を柱にした様々な取組がスタートし、子どもの変容が見られ始め、教員のモチベーションの高まりにつながった。</p> <p>4. 今後に向けて ・教職員一人ひとりが、これまでの取組に自信を持ち、次年度も継続して取り組んでいこうという意欲につながっている。「当たり前のことを当たり前にやっていく」という本校の文化として、残していきたい。</p>
神奈川	横須賀市立田戸小学校	小中一貫教育の推進と学校運営協議会の融合 ～持続可能な学校運営協議会の在り方をめざして～	<p>1 研究の成果 ・小中一貫教育については、以前から続いていたことではあるが、小中学校を含む地域の連携という視点で、児童生徒の9年間の学びを全教職員が意識できたことは、今後の教育活動に大きな成果をもたらすこととなる。 ・学校運営協議会を、一校だけで組織せず、中学校区の3校で組織することは、常に中学校区という地域を意識することとなり、小中学校をとりまく地域の人々が、9年間を意識した児童生徒の育成のために何ができるかを考えるきっかけとなる。</p> <p>2 今後の課題 ・学校運営協議会を推進するにあたって地域コーディネーターの委嘱を行い、教育資源・人材発掘を期待したが、システム化には至らなかった。 ・月ごとの活動報告書の作成を通して、より自覚を促し、積極的な活動を促していく必要をおおいに実感した。</p> <p>3 今後に向けて ・小中一貫教育については、もっと、児童生徒の実態や各校の特色を理解して目指す子ども像の共有化を明確にしていく。 ・学校運営協議会で熟議した内容の具現化にむけて、地域コーディネーターの役割の明確化と実践を積み重ねていくことで、各校の取組の一助となるような仕組みを確立していきたい。</p>
神奈川	大和市立下福田小学校	いきいきと表現できる児童の育成を目指して～国語科での言語活動の充実 ～「三がいのある学校」の実現に向けて～	<p>【研究の成果】 ・ICTを活用したことで、教師側もつまづいている児童に気付くことができ、学習状況を掌握しやすかった。 ・相手意識、目的意識を明確に持たせたことで、自分事として学習に取り組めた。次年度は重点目標に落とし込みたい。 ・経験年数や持ち味は異なるが、「個人設定課題」を持つことで一つの授業実践がそれぞれの課題解決へとつながった。</p> <p>【今後の課題】 ・児童の話し合いを大切にすることにはあたっては、個々への支援や全体の方向性を軌道修正する教員の授業力が必要となる。 ・地域の教育資産や人材について、今後さらに開拓し、いかに活用していくかを進めていく。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川	厚木市立小鮎小学校	持続可能な社会をめざす探究的な活動を地域と共に ～応援してもらうから、持続可能な社会の担い手を育む活動へ～	<p>研究課題</p> <p>1 教職員の意識改革について ○校内研究会に明星大学特任教授の西山俊彦氏を招き継続的に指導を受けることで、生活科や総合的な学習の時間の指導について意欲をもって取組めるようになった。 ○拡大運営協議会で地域の方々から地域で協働できることを共有することができ、地域で学習することについて不安軽減された。 ○応援し隊の支援によって、地域の方々の学校や子どもたちに対する思いを肌で感じ、地域の思いにこたえようとする意識が生じた。</p> <p>2 地域、企業、本物に出会うについて ○1年生は、地域の老人クラブ「しあわせクラブ」の皆様と学期に1回昔遊びに取り組むことができた。昔遊び名人から教わったり、自分たちで練習をして名人に知ろしたりすることで、意欲的に昔遊びに取り組むことができた。さらに、きせつとなかよしの単元では、サツマイモと一緒に育てていただき、収穫し、焼き芋パーティーまで開くことができた。 ○2年生は、地域探検の中で、養豚場に興味を持ち、養豚場で働く方から養豚場の仕事や豚の飼育について話を聞いた。時々、においがすることがあるが、養豚場の仕事に誇りを持っている方からの話をうかがい、仕事について1年生に教えたいと調べたことをまとめて、1年生に伝えることができた。 ○3年生は、小鮎地区の良さをいろいろな人に知ってもらおうとかるたを作った。厚木市のロードギャラリーに展示したことで新聞やタウンニュースにも紹介してもらい小鮎の良さを広く知らせることができた。 ○4年生は、福祉の体験活動から、地域の福祉マップを作成した。キャンパで作成したポスターにQRコードを付け、調べたことをスライドで紹介する動画を見てもらうように工夫した。地域の公共施設や店舗にポスターを掲示してもらった。 ○5年生は、SDGsについて学び、厚木市のSDGsパートナーに登録し、食品ロスを減らす活動を行った。給食の残渣量を調査し、残す原因を分析し、対応策について校内で皆に働きかけた。 ○6年生は、小鮎らしさを表現したうどん作りに取り組み、支援級で栽培した野菜や地域食材を提供していただき、地域の方々に感謝の会を開き食べていただくことができた。 どの学年も、教職員が、地域と関わること、子どもたちの学びのために、子どもたちを本物に出会わすことを意識して取組むことができ、子どもたちも、本物に出会い、意欲的に活動に参加していた。 課題は、今後も、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を育成することができる体験活動や人・企業との出会いをコーディネートできるよう、教職員が様々な実践例を学んでいくことである。そして、教師のねらいとする活動ができるような地域の素材、題材、人材を発掘し、学校とつなぐ役割をする推進員が必要と考え</p>
神奈川	三浦市立南下浦中学校	教師の個別最適な学びとしての探究的な学習 ～教師の主体的な学びを目指して～	<p>研究成果</p> <p>本研究を通して以下の成果を得られた。 ・教員たち一人一人が、個に応じた研究テーマを決定し、研究計画を立てて研究を進めることができた。 ・研修会を通して、「教師の個別最適な学び」という研究テーマでの取り組みについて共通認識を持つことができた。 ・それぞれが設定した研究テーマについて、グループでの協議等を通して考え、力を伸ばすことができた。</p> <p>今後の課題</p> <p>今年度は、一人での研究にならないようグループをつくりその中で研究に取り組んだ。次年度以降は、グループとしての取り組みをさらに充実させるとともに、互いの実践を見合う場面を設け、意見交換しながら研究を進めていく。</p>
神奈川	川崎市立生田中学校	かかわり、つながり、ひろげ・深める ～一人一人のよさや強みを生かし、互いの違いを理解し、認め合い高め合う学校づくり～	<p>○令和6年度も、様々な生徒会活動、校外学習や職場体験、地域の方々との交流などの体験活動を通して、人とのかかわり、つながりから、他者理解や思いやり、自己実現などを育む機会を設けることができた。 ○日頃から生徒一人一人に寄り添う教育相談を大切にし、学校が安全安心な居場所、心の居場所となるよう心がけた。特に、教室に入りづらい生徒、不登校生徒の居場所として、教室以外の支援のための学習室(フレンドリールーム)の環境を整えたことは、学習支援、コミュニケーションスキルの向上など生徒一人一人のニーズに応じた登校支援の一助とすることができた。</p>
神奈川	小田原市立城南中学校	学校経営計画(グランドデザイン)の検証 ～「経営の重点」の具現化に向けた取り組み～	<p>【研究の成果】</p> <p>・学校経営計画(グランドデザイン)は年度末の3月と年度はじめの4月にクローズアップされる。しかしこの研究を通し、毎日毎時間、心に留めておかななくてはならない正に学校を動かす心臓部分に相当する重要なものであることが再確認できた。 一人ひとりの職員が学校経営計画を確実に実践していることが分かった。このことを生徒や職員へ還元し、同時に感謝を全体に伝えたい。さらに集会等で全校生徒へも学校教育目標が体現されていくことを伝えていく。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>・学校経営計画の作成では、課題がある。管理職が作成してそれを職員におろすトップダウン方式で今まで進めてきた。今後は職員の考えや思いを学校経営計画に反映できるような流れを作っていきたい。多忙中ではあるが、「ここはこうの方がいい」という職員の意見を集めボトムアップ方式で学校経営計画を作成してみたい。その方がより強い経営となると考える。 学校は何のために存在するのか、その答えについて私は「生徒の幸せをつくり出すため」と言葉にしている。一人ひとりの生徒が「今日学校へ来てよかった」と思えるような学校作りに今後も努力していきたい。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
新潟	上越市立大手町小学校	非認知能力を發揮させ、育成する「探究」の取組 ～「コアスキル・コアマインド」に着目して～	「研究主題の主な研究成果」 令和6年度、私たちは「6年生の高田の魅力伝える活動」「4年生の青田川LABOの活動」をはじめ、「コアマインド」である好奇心・情熱・共感と、「コアスキル」である論理・創造・言語・身体を一体で伸ばす教育課程を設計してきました。単元横断的な学習プロセスを共通化し、授業の重複を削減することで、探究活動に時間と意義を与え、子どもが地域と交わりながら主体的に学ぶ姿を実現することができました。今後は①教科内容の整理によるカリキュラム・オーバーロードの解消、②探究を支える教師研修と評価基準の整備、③保護者・地域・専門家と連携した学習機会の拡充に取り組みます。これらを通じ、子どもたちが内なる動機に突き動かされて学び続ける「共生社会を創る子ども」を育ててまいります。
新潟	五泉市立五泉小学校	「共創力」を高める子どもの育成 ～「対話」を大切にした教育活動と「対話」を通じて学びを深める授業づくり～	【成果】 ○ 子どもの実態を把握し、「ずれ」や「あこがれ」、「困り感」を生む問題を設定することで、子どもの問題意識を高めることができた。 ○ 子どもに問いをもたせ、対話が必要な場合かどうかを吟味したうえで対話の視点を設定することで、学びを深める話し合いをすることができた。 【課題】 ● 提示する問題が難しすぎると、子どもが問題に関心を示さなくなったり、見通しがもてずに諦めてしまったりする。どれくらいの難易度の問題を設定するか、どこまで見通しをもたせるかを考えていく必要がある。 ● 子どもの対話を促すために、話し合うための情報や道具、明確なゴールの3つの視点で授業を見直していく必要がある。
新潟	上越市立柿崎中学校	ICTを効果的に活用し、気付きや学びを共有し、深め合う生徒の育成 ～保健体育科「柔道」単元の授業実践を通して～	【主要な研究成果】 ・一連の動作の中にある「崩し」に視点を置いたことは、生徒が動作の有効性を理解し、正しい動作を習得するのに効果的だった。 ・課題の動作を大画面で繰り返しスロー再生することは、生徒が課題を把握するためにとっても有効であった。 ・大画面モニターに各グループの動画を投影することで、意見交換したり、課題を把握し解決策を考察したりするのに有効であった。 ・学習カードに図を入れ文字でまとめる図解は、生徒の考えを見取りやすく、学びの定着度を把握しやすかった。
新潟	胎内市立中条中学校	学びの価値を自覚するアントレプレナーシップ教育の推進 ～自分たちの問いを探究する「子ども真ん中」授業と学習ログの蓄積～	研究の成果 ○主体的に課題を見つけ、解決に向け試行錯誤することで自身で成長を実感できた。 ○実社会の問題に挑戦したことで、多面的なものごとを考えられるようになった。 ○総合的な学習の時間が楽しいと答えた生徒は93.4% <5月と9月のアンケート数値の変動> ・将来の夢や目標を持っている +22.0 ・人の役に立つ人間になりたいと思う +10.4 ・自分とちがう意見について考えるのは楽しい +11.2 ・うまくいかなかったときに、次の方法やアイデアを考えようとする +9.0 課題 ○生徒の振り返りを見ると、教科の学習内容と関連することが薄い。各教科のカリマネや学習ログの蓄積、単元内自由進度学習などの視点からさらに授業改善が必要である。 ○学び方に関することでは、有効な意見があった。これを個人にとどめず、班、学級、学年、他学年へも共有し、学びを広げていく場面設定が必要である。 ○今後この活動をいかに持続可能なものにしていくかが大きな課題である。
富山	富山県立富山工業高等学校	難度が高い資格取得教育 ～技能検定普通旋盤2級を通じた指導～	【研究主題の主要な研究成果】 普通旋盤2級の技能検定に挑戦させることにより、生徒の学習意欲を喚起して技能習得を促進し、現場で求められる力をつけさせる実践に取り組んだ。テキストの作成・改訂を進めることで、指導方法が改善されて合格させることができた。生徒は授業以外に機械や測定器等を多く使用したことで、興味関心が高まり、専門科目の授業に対する意欲が向上したなどの改善が見られたことをはじめ、①機械の操作や技術が定着した②安全作業に意識するようになった③コミュニケーション能力が向上した④他の資格・検定に挑戦するなどの意欲向上が見られたなどの成果が現れた。

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長野	小谷村立小谷中学校	平成7年度豪雨災害の記憶をつなぐ防災教育 ～生徒が園児や児童に豪雨災害を語ることから地域の安全意識を全世代で向上させる活動～	研究の成果・課題 ・私たちの住む小谷村は、厳しい自然環境(*1)の中、豪雨災害(*2)や、地震(*3)などの心配がある地域であるが、だからこそ、雄大な自然、良質な雪質のスキー場(*4)や、数々の温泉を抱えるなど、自然の恩恵を十分に享受している地域であることを学んだ。 ・地域を深く知り、地域の先人に学ぶことで地域に対する思いが強くなった。 ・将来、何かの形で故郷に貢献できる人になりたい。 *1 高い山に囲まれた日本有数の豪雪地帯であり、糸魚川静岡構造線の真上にあるという立地 *2 1995(H7)年の姫川流域7・11 豪雨災害(レポートで紹介した災害) *3 2014(H26)年に発生した長野県神城断層地震 *4 村内には梅池高原、白馬乗鞍、白馬コルチナという3つのスキー場がある
長野	長野市立長野中学校	カリキュラムマネジメントにおける「小さじ一杯の工夫」 ～総合的な学習の時間を核にした市立長野の挑戦～	・「翼プロジェクト」を充実させるため、総合的な学習の時間に全校研究体制で取り組んだ。 ・子どもが目的意識をもって活動に取り組むために、教師は子どもの願いを引き出し、支えていくためのファシリテーション力をつける必要がある。 ・子どもが本物の「人」や「もの」との出会いをどうつくるのか、教師がいかに教材研究や子ども理解をしておくかがポイント。 ・「翼プロジェクト」の時間では、教室での学習に取り組みにくい生徒も、意欲的に学習に取り組む姿があり、各教科へつないだ。教科横断的な学習を今後はさらに広めることができるよう、翼プロジェクトの研究を次年度も継続していく。 ・教員間の連携の充実が図られた。本研究を進めるにあたり、職員間で対話をしながら構想することができた。
岐阜	羽島市立正木小学校	夢やめあてをもって生きる児童の育成 ～チャレンジタイム(生き方教室)の実践を通して～	研究の成果 ・年間を通じて、夢や目標について考える時間を設けることで、夢や目標をもつ児童が増えた。 ・夢を実現した大人を講師として招聘した生き方教室では、大人に憧れをもち、自分も同じように夢を実現したいと前向きに考える児童が増えた。 ・講師の「自分の好きなことを仕事にしてもよい」という言葉から、児童は、好きなことを仕事にしてもよいという意識が変わった。 ・児童の作文から、将来の職業選択について、自分自身の特性や経験から自分を見つめて、よく考える児童が増えた。 ・将来なりたい職業のために、今自分が取り組みたいことや頑張りたいことを逆算して考えることができる児童が増えた。
岐阜	岐阜県立大垣養老高等学校	ウシもヒトも育て地域を発展させる	主要な研究成果 自家保留による系統牛「ともみ系」造成、岐阜県全体の和牛のレベルアップを図る。令和9年の全国和牛能力共進会北海道大会では、岐阜県の農業高校・農業大学校が協力し、ともみ系産子(繁殖雌牛)で特別区に出品することが決まった。また、本校においては令和7年1月にともみ系産子(去勢肥育牛)を全農主催和牛甲子園に出品し、岐阜県の高校連携や和牛改良組合との連携などの活動が評価され、取組発表部門で優秀賞を獲得した。この牛に関わる活動をしてきた在校生・卒業生は畜産農家、JAなどの関係機関、食肉加工・流通関係、農業高校職員など進路を目指している。今後も母校と岐阜県のブランドである「飛驒牛」の発展に貢献することが期待される。
静岡	菊川市立横地小学校	郷土を愛し、未来をたくましく生きる子どもの育成の実践 ～地域の多様な人材を活用した教育活動～	<研究成果> 1 自己肯定感の向上 多様な体験活動を取り入れ、お互いの良さを「本気いっぱいカード」に書き、称賛し合う活動を通して、自分の良さを認識し、自己肯定感の向上につながった。 2 専門的な知識 お茶の手もみ・田植えなど専門的な技能を必要とする活動に、地域の方をゲストティーチャーとして招くことで、教員では伝えることができない技能を伝えることができた。 3 令和6年度第3ステージアンケート結果より(<>内は目標値) 地域や社会(クラス・学校)をよくするために何をすべきかを考える→97.0% < 90% > 自分には良いところがある→96.1% < 90% > <今後の課題> 1 人間関係の固定化 今後も単級での学校生活が継続するため、視野を広めたり、他者との関わりを深めるために、他校との交流活動、地域と連携した教育活動を進めていく必要がある。 2 人材確保 多面的・多角的な活動を行っていくため、地域との連携をより一層深めていく必要がある。
愛知	岩倉市立五条川小学校	対話で高め合う五条川っ子	本研究では、子どもたちの活動を中心とした教育改革が進められ、主体的な学びが促進された。特に対話を重視することで、児童は人との関わりや自己表現を通して成長し、自分の考えを深める力が向上した。授業改善や働き方改革を通じて、教員間の連携も強化され、より働きやすい環境が整ってきた。この3年間の取組を通じて、子どもたちは自らの課題に向き合う姿勢を見せるようになり、教員は具体的な目標を示し続けることが重要であることに気付かされた。結果として、研究は特別な1日というよりも、日常の中の自然な一環として捉えられ、子どもたちのさらなる成長が期待される。今後もこの流れを維持し、持続可能な教育を実現することが求められている。

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	大治町立大治南小学校	地域とつながり、地域を考える児童の育成 ～地域に学ぶ食農教育・防災教育	成果と課題 ・ 地域に関わる方が食農と防災の専門家として外部講師として来校し、児童がともに学ぶことの意義が確認できた。 ・ 食農教育では、外部講師と一緒に畑で育てた野菜と個人のプランターで育てた野菜を比較したり、収穫した野菜を自分で調理して味わったりして、自分たちが住む地域について理解を深めることができた。 ・ 防災教育では、専門家の視点を学び、自分たちが住む地域に災害が起こったらどうするか、自分事と捉えて防災について学びを深めることができた。 ・ 学校全体の取組として、食農教育と防災教育の年間計画を作成しているが、今年度の取組を振り返り、他教科や行事との関連について検討し、改善することが今後の課題である。
愛知	扶桑町立扶桑中学校	主体的に学ぶ生徒の育成	【主要な研究成果】 ① アクティビティを通して、「課題を見いだす」「見通しをもって取り組む」「課題の答えをつくり出す」生徒の姿を実現することができた。 ② 自己の活動を振り返ることを通して、生徒は考えの変容を自覚したり、新たに課題を見つけたりすることができた。 ③ 授業計画に授業レシピを採用することで、生徒の姿や反応に応じて柔軟に対応したり、研究協議で話し合う視点が明確になったり、自主的に授業公開をする教員が増えたりした。 ④ 日常的に一人一授業と研究協議を行うことは、私たち教員が目指す生徒像や授業づくりの際の視点を日常的に振り返るなど、主体的に学ぶ生徒の実現に向けて、有機的に機能した。  以上の①②より、主体的に学ぶ生徒を育成することができた。また、③④が、目指す生徒の実現のための仕組みとして有効であったことが分かった。
兵庫	兵庫県立明石北高等学校	英語と日本語の両方を活用した、探究活動におけるバイリンガル授業の実践について	本探究活動は、英語と日本語を併用して、科学現象を英語で理解できる力を伸長する「バイリンガル授業」に関するものである。 研究では、ミミズの解剖(生物)、ロウソクの科学(化学)、プランクトン観察とプレゼンテーション(生物)の3つの授業を実施した。英語と日本語を併用することで、科学用語の英語での理解が促進され、生徒の学習効果が向上することが確認された。特に、ALTと理科教員が連携し、英語での説明の後に日本語で補足する形式が効果的であることが示された。 アンケート調査の結果、75%以上の生徒がバイリンガル授業によって内容理解が深まり、英語を理科の授業で活用する重要性を認識したと回答した。 今後の展望として、より科学的な探究的な活動とバイリンガル教育を結びつける取り組みを行う予定である。
奈良	橿原市立耳成小学校	すべての子どもたちが尊重される授業の創造 ～聴き合い、つながり、学び合うことを通して～	主要な研究成果 ・ 児童の聴く態度が培われ、他の人の考えや気持ちなどを大切にしようとする態度の育成について一定の成果が見られた。 ・ 児童のペアやグループによる協働学習の充実により、分からないことや困ったことは隣の人やグループの人に尋ねるといった姿勢が身に付き、難しい課題に対しても協力して粘り強く取り組もうとする態度が培われてきている。 ・ 教職員間の会話において、教材分析や子どもの姿に触れる話題が増え、学び合う教職員集団としての関係づくりが進められた。 ・ 教科の特質を踏まえた言語活動の充実を図り、共感的に理解しながら聞く力、考えや気持ちを適切に表現し、的確に理解することができるような伝え合う力、分かり合うためのコミュニケーションの能力をさらに高めていきたい。
奈良	奈良県立奈良商工高等学校	地域学校協働活動を通じた教育活動について ～地域と共にある学校を目指して～	【研究主題】 ・ 生徒は学校で学んできたことやこれから学ぶことが自分たちの生活や社会につながっていることを実感し、より意義を感じながら学習に向かうことができるようになった。 ・ 地域の方に喜んでいただけることで生徒は達成感を感じるとともに、自己有用感を高めることができた。 ・ 地域の子どもたちに、ものづくりやビジネスに興味をもってもらうことはこれからの社会を担う次世代の人材育成につながると思う。 ・ 生活体験の乏しい子どもが増えているといわれているが、本校でのものづくりの体験が様々な体験に積極的に挑戦していくきっかけとなってほしい。 ・ 今後も地域の人々に本校の教育に対する理解を深めてもらうとともに、地域の子どもたちにも本校の取組に興味をもってもらうことで、本校と地域が一体となって将来地域社会を支える人材の育成を目指したい。
和歌山	和歌山市立有功東小学校	子どもが自ら世界を拓く学習 ～探求し続け、新しい自分にでよう総合的な学習の時間をめざして～	<研究主題の主要な研究成果について> 本年度の本校4年生総合的な学習の時間「つながる紀の川」の実践から、研究成果を報告する。 本実践で、児童は紀の川と私たちのくらしのつながりを学んだ。紀ノ川大堰を見学し、川の役割を知る中で、調べたいテーマを見つけ、ゲストティーチャーの話から、水道水が作られる仕組みを学んだ。そこで川の水が生活と深く関わっていることに気付いた。上流の川上村では、水源地の保全や大滝ダム建設の経緯を学び、上流と下流のつながりに目を向けられた。中流では、紀ノ川漁協の鮎の放流体験を通して、川の環境保全の努力を知った。これらの体験を重ね、水を「使う」だけでなく「守る」ことの大切さを実感した。最後に、自らの手で千手川の清掃活動を行い、環境を守る大変さや達成感を味わった。 本実践で、児童は紀の川についての探究を深め、自然と共に生きる人間の責任や自分達にできることについて考えることができた。

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
岡山	井原市立木之子中学校	学びに向かう集団づくり～主体的な学びと人間関係～ ～爽やかさ・夢や希望・思いやり・心の豊かさ・確かな学力の育成～	○成果(学級力アンケートより7割生徒が肯定的な意見) 生徒が自由に発言できるような授業展開を工夫し、ICT機器やグルーブトークを活用した結果、授業中に無駄な私語が減り、授業への規律力が向上した。また、アウトプットの場を増やし、生徒が自分の考えを発言できる授業を行った結果、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや、考えや意見を進んで出し合う対話力が向上した。 ○課題 相互に授業を見学する期間を設けたが、実施した教師が少ないため、教師の指導力の向上につながらなかった。授業時間割を工夫し相互参観できる授業を増やしたい。人前で話をするのが苦手な生徒もいるため、引き続き、文化発表会や体育会などの学校行事を通じて、生徒が主体的に取り組める場を設け、リーダーやサポーターの成長を促したい。
広島	広島市立吉島小学校	個が育つ校内研究の推進について ～子どもの主体を育む教育活動に着目して～	成果 ○語りの時間は、児童の相互理解や教師の未取りにもつながり、学習中における対話が活発となった。 ○子供が自ら解決していきたい単元開発と課題設定を行うことで、学校が目指す児童の主体が生まれ始めている。 ○学校全体で取り組んできた「授業」「語りの時間」「自主活動」「美化活動」が、児童の言動に変化をもたらしている。 ○教師が学習場面や生活画面で表れている児童の変容をしっかりと感じているため、次への意欲が高まっている。 課題 ○児童の内面の変容をどういったところで見取っていくかが、今後の課題となる。
広島	安芸太田町立加計中学校	ICTの活用で実現していく新しい学びの環境づくり ～学びの質を高める効果的なICTの活用を通して～	主要な研究成果 【研究の成果】 ・「学瞰レコーダー」を活用することにより、生徒の対話の様子を録音・録画することができるようになった。 ・授業での生徒の対話の様子をもとに、研究協議を行うことで、より協議が深まった。 ・授業について、事前に生徒に期待する学びの姿を想定することで、よりねらいにせまった授業づくりにつながっている。 ・授業の改善点を3つの視点(①授業デザイン②課題や資料の提示③授業中の支援など)から振り返ることにより、今後の授業に生かしたり、授業づくりの参考にしたりすることができるようになった。 【今後の課題】 ・生徒自身がICTを活用して、自身の学びを振り返ることができる機会を設ける。
山口	山口県立田布施総合支援学校	コロナ後の学校行事の在り方見直し「学校の当たり前を見直す」 ～「明日も学校に行きたい」と思える入学式に～	<研究成果> 学校行事の在り方の見直しは「これまでの当たり前を見直す」という教員の意識改革につながっている。教育活動を子どもたちの立場(当事者意識)に立って評価する(見直す)ということは、当然、これまでも行ってきたつもりではあったが、これまでの常識にいかにとらわれてきたか改めて気づかされる。見直し後、新1年生の子どもたちは、入学式の翌日から全員元気に登校している。 今年度は、運動会の見直しに着手したところであるが、根底に「当たり前を見直す」意識があれば、視点の広がりや深まりが違う。引き続き、教育活動のブラッシュアップを行い、本当に「子どもたちのための学校」と言えるエビデンスを積み重ねていきたい。
高知	高知市立春野中学校	「持続可能な地域とともにある学校」の体制の構築 ～春野コミュニティ・スクールの活動～	(1) 学校運営への参画が進み、春野における「地域とともにある学校づくり」の体制が確立できた。 ① 拡大大学校運営協議会を開催することで「地域との連携・協働」の意義を確認することができた。 ② 働き方改革・防災の取組・不祥事防止等における各校の取組を運営協議会で共有できた。 ③ 地域とともにある学校を周知するリーフレットの作成及び配布ができた。 (2) 『春野がめざす子どもの像(の姿)』実現のための当事者アンケートの策定・実施と学校評価 ① 実現のための具体的な取り組みの協議と承認を行った。 ② 『めざす子どもの姿』実現のための当事者アンケートの策定と実施・検証を行った。 ③ 学校評価をより効率的な内容にし、目標・振り返りを共有できた。 (3) 春野における地域学校協働活動の推進 ① 令和6年度の春野町地域学校協働本部の体制と運用について、試行錯誤を重ねた。 ○ 要綱を改訂、2回の協議会とし、自尊・他尊や春野の地域や子どもの良さについて協議した。 ○ 多少なりとも地域学校協働活動が前進した。2回の協議会において、活動内容を共有した。 ② PDCAにより、令和7年度の春野町地域学校協働本部の体制を明確にした。
福岡	行橋市立椿市小学校	「深い学び」を実感する子どもを育てる算数科学習指導 ～ICTを活用した数学的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫～	本校の研究は、算数科の学習において「深い学び」を実感させることを目指しています。ICTを活用し、数学的な見方や考え方を働かせる学習活動を工夫し、子どもたちが問題解決力を高め、主体的に学ぶことを促しています。研究では、単元ごとの計画と評価を「つくるー使うー使いこなす」の三段階に分け、基本問題からチャレンジ問題までの学習過程で「使えた・分かった」を実感させる工夫をしています。また、一斉学習、個別学習、協働学習におけるICTの効果的な活用方法も提案されています。実践記録や成果と課題も詳細に報告され、全体として学力の向上と自己肯定感の高まりが確認されています。

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長崎	長崎県立壱岐商業高等学校	ふるさと壱岐を元気に！ ～ふるさとを盛り上げるカリキュラムから目指す“Well-being”～	<p>【研究の成果】</p> <p>(1) 本年度より商業科目「ビジネス・マネジメント」を3年生で全科履修とする教育課程を変更したことで、3年生全員が株式会社IKISHO運営に携わることができた。</p> <p>(2) 株式会社運営という実践的な活動を行うにあたって、そのマインド育成のために、昨年度2学期からプロジェクトチームを立ち上げ、本年度から1・2年生の「総合的な探究の時間」の内容をリニューアルした。指導体制を確立すべく、学科や学年横断の柔軟なカリキュラムの実施に取り組んでいる。地域社会にある課題を発見し、問いを立て、その解決のための計画を立て、行動することを通して、引き続きアントレプレナーシップとシティズンシップマインドの育成を目指す。</p> <p>(3) 本年度から本校所在地である壱岐市が高校の魅力化を図るコンソーシアムが設立した。これからも壱岐市と本校の関係性をさらに深め、島全体で地域をフィールドとした教育に携わっていく。</p>
長崎	平戸市立山田小学校	自尊感情を育む教育活動の在り方 ～一人一人のよさを認め合い、挑戦する児童の育成を目指して～	<p>□成果</p> <p>○ 自尊感情を高める様々な取組のなかで、様々な機会を通して認められる機会が多くなることで、積極的に挑戦する児童が増えた。また、学力の向上、自信をつけた姿、他者を思いやる姿、生活習慣の改善など、多くの児童の良い面が増えた。</p> <p>○ 通信等で、家庭にも子供たちの目標に向けての取組を発信していくことで、保護者からも子供たちを認める声掛けが増えるなど連携を図ることができた。</p> <p>□課題</p> <p>● 自尊感情が高まったかどうかの指標をどのようにするのか。アンケートの結果だけでは、自尊感情の高まりを評価することができない。評価が主観的になるので、難しい面がある。</p> <p>● 学年内で、自己評価・自己受容が低い傾向の児童もいるので、自分のよさを認めて自信につなげる取組や自分が他の人の役に立っているという実感をもてるような場の設定、声かけ、賞賛を続けていくようにする。</p>
長崎	時津町立時津小学校	学びを自ら創造し、確かな学力を身に付けた児童の育成 ～個別最適・協働的な国語科授業を通して～	<p>【研究の成果】</p> <p>○ 国語科だけでなく全教科における実践に取り組んだ。数多くの実践を通じて、教科の特質や単元の内容に応じて、「子どもに任せる場」を意図的(1単位時間内・単元内)に仕組むことが、児童の主体性向上や協働的な学びにつながるようになった。</p> <p>○ 子ども自身で進められそうな場合は「任せ」、できないと思われる場合は「教える」というように、「子供に任せる場」を意図的に設定した。また、自身の取組を客観的な視点で捉えられるよう、提示した視点をもとに振り返りを行うようにした。これらの取組により、学習に関するアンケートでは、児童の主体性(自ら学ぶ・自分で選択する)に係る項目に関して、肯定的な回答が9割を超えた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>△年間を通じて実践に取り組んだが、点数化できる面の学力の向上があまり見受けられなかった。(東京書籍 標準学力調査【CRT】より)子どもによる「選択」と「判断」が適切でないまま、学習が進んでしまっていることが要因と考えられる。視点を明確にした振り返りを通じてメタ認知をできるようにしたり、予習学習(授業の終末時、次事の内容にふれることで、次事の導入を短くし、習熟の時間を多く設ける)を取り入れたりすることで習熟を確実にできるようにし、学力の向上につなげていく必要がある。</p>
熊本	大津町立大津小学校	自分に自信と夢を ～「学力復活」に向けた5者連携の取組～	<p>【主な研究成果と課題】</p> <p>(1) 成果</p> <p>① 所期の目標である「学力復活」に向けた一歩を踏み出したこと。 (数的データから)</p> <p>② 業務に関する「やりがい・働きがい」を喚起できつつあること。 (個々の聞き取りによる質的データおよび教師質問紙の数的データから)</p> <p>(2) 課題と今後の方向性</p> <p>① 「学力復活」に向け、さらにもう一歩、児童の個々の力を伸ばすこと。</p> <p>② 引き続き、教員一人一人の力量を高める取組を継続すること。</p> <p>この2年半の間取り組んできたことについては、一定の成果が確認できた。一方で、人材育成を始め、児童の更なる学力向上については、新たに見えてきた課題もある。現状を整理し、新たな工夫について引き続きチームで考えていきたい。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
熊本	熊本市立麻生田小学校	麻生田ESDの視点に立ち、自ら考動し、つながり合う子どもの育成 ～英語教育を中心として、コミュニケーション力及び表現力の向上を目指して～	<p>研究の成果と課題</p> <p>(1) 成果</p> <p>ア 目的意識、相手意識のある児童が主体となるESD活動ができた。 授業や交流、体験活動等を通して、子どもたち同士、子どもと教師、学校と地域との連携が深まった。</p> <p>イ 英語を学ぶことへの意欲・関心の向上 子どもたちが本物の英語に触れ、慣れ親しむことで、英語学習への意欲・関心の向上につながった。</p> <p>ウ 考え動く力(考動力)の育成 自ら考え、できることから行動する「考動力」が子どもが育成されつつある。</p> <p>(2) 課題</p> <p>ア 麻生田ESDの学びをどのようにつなげていくか ESDの取り組みについて、子どもの意識に差がある。</p> <p>イ 交流活動などの計画・実践 地域の各種団体との連絡・調整が必要であり、時間の確保が難しい。</p> <p>ウ さらに保護者・地域へ さらに麻生田ESDの取り組みについて保護者、地域へ啓発していき、充実を図る。</p>
宮崎	宮崎市立宮崎小学校	生産性の高い学校経営の在り方を考える 目指せ！「教職員の労働時間削減」 ～職場環境整備を通して～	<p>研究主題の主要な研究成果</p> <p>職場環境整備と管理職による教職員のポジティブな行動の支援を継続してきたことで、教職員の労働時間の削減と生産性の向上は図られてきており、以下の3つの評価の指標からもそのことが伺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力 各種学力テストの結果は、全国平均や宮崎市の平均をすべての学年で上回り、経年変化をからもその向上がみられる。</li> <li>・教職員ストレスチェック 仕事の量的な負担、上司の支援ともにその数値が全国平均をさらに上回り、向上が継続してみられる。</li> <li>・教職員の労働時間 総労働時間の減少はわずかに見られるものの個人差が大きく出現している点についてさらなる改善が必要である。</li> </ul>
鹿児島	鹿児島市立坂元中学校	生涯を通して「こころ」を大切にできる生徒の育成を目指して	<p>【成果】</p> <p>1 職員研修で、ストレスマネジメント教育の理論を学び、実際に実技を体験したことで、ストレスマネジメント教育の効果や必要性を理解できた。また、実技を体験したことで、自分のストレスと向き合い、ストレス解消を図ることもできた。</p> <p>2 「心の健康教室」を通して、生徒が自分の心に向き合い、心の健康への興味や関心を持たせることができた。また、多くの講師を活用することにより、効果的に学習することができた。</p> <p>3 「朝の健康・体力づくり」の継続的な実践により、ストレッチやリラクゼーションを自主的にできるようになり活用できる生徒が増加した。</p>
鹿児島	始良市立重富小学校	主体的に・協働的に学び続ける子供の育成 ～算数科における授業改善及び研修の在り方の改善を通して～	<p>1 成果</p> <p>(1) 研究の組織を学年中心にしてことで、日々の授業改善につながり授業力が向上した。</p> <p>(2) 主体的に学習に臨む子供が増加し、安定した学力向上につながった。</p> <p>(3) 研修体制を改善したことで、多くのアイデアが生まれ、多くの教員の授業改善への意欲が向上した。</p> <p>(4) 相互授業参観や「子供が主語」の授業研究等を実施したことで、教員の心理的安全性が向上し、その結果、学級経営の安定や学力向上につながった。</p> <p>(5) 算数科で実践したことを、総合的な学習の時間にも応用でき、子供の思考力・表現力・判断力等が飛躍的に向上した。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 学力に伸びが見られない分野等への更なる授業改善が必要である。</p> <p>(2) 研修時間の確保が難しく、時間的な制限を考慮しながらの柔軟な対応が必要である。</p>
鹿児島	垂水市立新城小学校	自ら学び考える子供の育成 ～新城らしいGIGAスクールの取組を通して～	<p>研究主題の主要な研究成果</p> <p>本研究では、反転学習、単元内自由進度学習、ICT機器の利活用という3つの視点から、子供たちの主体的な学習意欲を高めることを目的とした実践を展開した。子供たちは、主体的に家庭学習で取り組み、授業では対話的な学びを深める姿が見られるようになった。また、単元内自由進度学習を通して、学習課題、学習形態等を自己選択・自己決定できる場を設けたことにより、主体的に学習に取り組む子供の姿が見られた。</p> <p>一方、各教科等の探究的な学習において、自分の考えを深め、表現することに課題が見られた。今後は、子供たちの認知特性や学習履歴を踏まえ、より効果的な学習支援を行うための指導法の研究実践の累積及び検証が必要である。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	志布志市立伊崎田小学校	みんなのウェルビーイングを実現する学校のカリキュラムマネジメント ～イサキダキャンパスモデルの提唱～	<p>○研究主題の主要な研究成果 「イサキダキャンパスモデル」とは 伊崎田小の7つの特徴的な学校カリキュラムマネジメント 1. チーム担任制 2. 午前5時間40分授業 3. 教科担任制 4. 小中乗入授業 5. 合同学習 6. イサキダタイム 7. 校務DX</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度、5年度それぞれ新卒新規採用教員1名計2名を含む、全ての教員が、日々落ち着いた状態で生活できている。学校生活全体でのウェルビーイングを感じている。</li> <li>複数の担任がいることで、「話せる・相談できる先生がたくさんいる」と語る児童が多い。</li> <li>午前5時間授業40分授業は、児童の集中力の維持という面でも効果を感じる。</li> <li>合同学習の推進やチーム担任制の取組で、年休の取りやすさや研修会への参加、午後の出張への対応(自習にしない)ができています。</li> </ul>
鹿児島	鹿児島県立串木野高等学校	総合的な探求の時間(串木野学)における生徒の成長 ～地元と密接に関わってきた探究学習の経緯～	<p>(1) いちき串木野市企画政策課の講演等を通して、本市の抱える課題及びその解決に対する取り組み等を学ぶことが出来た。</p> <p>(2) いちき串木野市の(企画政策課, 総合観光案内所, 地元企業)等への訪問を通して、本市の各業種が抱える課題及びその解決に対する取り組み等についてアドバイスを受け、最終報告会において市へ審査を依頼し、持続的かつ協働的な取り組みを行うことが出来た。</p> <p>(3) 大学等教育機関(清泉女子大学)と連携し、生徒の取り組みに対する探究型学習のアドバイス及び指導を受けることが出来た。</p> <p>(4) 以上のようなことから、① 主体性と自主性の向上, ② 問題解決能力の向上, ③ コミュニケーション能力の向上, ④ 地域への愛着と理解の深化, ⑤ プレゼンテーション能力の向上, ⑥ 実践的な学びの経験, ⑦ 協力とチームワークの重要性の認識 等についての力が養われた。</p>
鹿児島	鹿児島県立蒲生高等学校	商品開発の取り組み ～地域に必要な人材を育成するプログラム～	<p>【まとめと今後の課題】</p> <p>(1) 商品開発 商品開発の具体化はとても大きな成果となっている。生徒の今後の生活に確実に生かされている。開発の難しさや経済動向をつかむなど自ら考えさせることも多いが、大きな成長がみられる。現在は単年度終結となっているものが多く、そこが大きな課題である。企業からのソフト面・ハード面での協力体制が確実に必要である。今後は低学年からのしっかりした体制づくりが必要となる。</p> <p>(2) 販売実習 高校生による就業体験の機会を増やし、将来の進路やキャリアについて考える機会を得ることができた。また、お客様とのコミュニケーション能力や協調性など生徒たちの有益な体験の機会となった。しかし課題として、地元企業の協力が必要となり、入念な打ち合わせとサポート体制が整うことで成功の可否が問われる。また、キャッシュレスに対応する販売形式は喫緊の課題である。</p> <p>(3) 生徒商業研究発表大会 本年度、鹿児島県大会に初出場した。前日のリハーサルから、当日の発表まで生徒は紆余曲折があったものの堂々と発表することができ、大きな達成感が得られた。今後は大会に向けての準備だけでなく、その過程での生徒への意識付けが大きな課題である。ヒントや手がかりを与えるだけでなく、その後の指導と継続的な探求心が必要となる。教える側の手腕が問われる。</p> <p>(4) その他 来年度も周年行事と企業のコラボによる商品開発は計画。同窓会や企業も含め他者の協力を仰ぐ必要があるが、その前提は現場での担当者のサポート体制充実化にかかっている。</p> <p>4つの柱を含めた情報処理科の授業は実践形式の実学の授業が多い。だからこそ経済的なソフト面・ハード面両方からの協力が必要である。地元企業の協力を得る事はもちろん、地域に必要な人材の育成はまだはじまったばかりである。今後の展開が楽しみである。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
山形	鶴岡市立朝陽第六小学校	主体的に対象と関わり、対話を通して能動的に課題解決を目指す児童の育成 ～「学びがい」のある学習材で地域愛・愛校心を育む～	研究実践を通して得られた主要な研究成果 ・児童が主体的に学習を進めることができた。その後の学習でも、自ら考え行動する姿が見られるようになった。 ・課題解決の手段としてゲストティーチャーへのインタビューを経験したことが、その後の他教科での学習にも生きた。 ・年度当初に比べ、地域に愛着をもち、地域を支える人への関心が高まった。 ・児童が「六小音頭」の魅力に気付くきっかけとなり、体感的に学習できた。 ・学習を終え、少し時間が経った頃に学習発表会を行った。児童のアイデアを基に学年の発表内容や構成を考え、「六小音頭」の合奏に取り組んだ。学んだことを生かし、伝統を受け継ぐ思いを形にしようと創意工夫しながら表現する姿がみられた。
山形	天童市立第三中学校	生徒の思考を活性化させ表現力を高める技能統合型授業の実践 ～「読むこと」から「話すこと」への展開に重点を置いた指導を通して～	<主要な研究成果> ・3年間実践を積み重ねたことで得られた成果は、アウトプットの質の向上である。生徒は読んだことを元に、自分なりの表現で臆せず話すようになった。 ・ICTを利用し、気軽に録音・録画して視聴することは、音声に関する中間指導を可能にした。そして、生徒のメタ認知を促進させ、自己調整を促すことにつながった。 ・今年度は技能統合型授業として、学年末にディベートに取り組んだ。主張とその理由を明確にして話そうと思考を巡らせ、白熱した議論となった。また、聴衆から納得の声や笑いが起きる場面もあった。生徒の振り返りでは、聞く力や英語に対する瞬発力をもっと磨きたいという声が多かった。 ・正確さを高める指導や「聞くこと」から展開する指導が今後の課題である。
神奈川	神奈川県立横浜翠嵐高等学校定時制	定時制高校におけるスパイダー討論の取組 ～早期中途退学防止を念頭に置いた生徒同士のつながりを作る国語科授業の一考察～	(研究成果) 討論を経て生徒は「多くの人が自分から話を進めるようになった」「個人(話を回せる人)が進めていたのが、全体的に話すようになった」「対話するハードルが下がった」など、対話に対する不安感が低下し、全員が対等な立場で討論に参加できるようになったことを変化として挙げた。これらは生徒の自己評価を数値化した値の変化からも確かめられた。 本実践に参加した生徒8名はいずれも中途退学することなく前向きに学校生活を継続し、他教科における話し合い活動にも前向きに参加している。1年次の授業において、自らの考えを伝え合い、その活動を可視化するスパイダー討論の取り組みを行うことは、生徒同士をつなげ、2年次以降の学校生活について主にコミュニケーション面について効果を発揮していると考えられる。
新潟	妙高市立新井中央小学校	人権教育、同和教育を柱にした学校づくり ～全校児童が「自分もみんなも明るくうれしくよかったね」と感じる学校をつくるために～	<研究の成果と今後の課題> ・登校渋りや授業不適合児童のほとんどが教室に戻り、学びに向かっている。児童の困り感を十分に聞き取り、特別支援教育コーディネーターを中心に職員で話し合い、児童に適した学習指導や安心できる居場所づくりに努めた成果である。 ・人権教育、同和教育を各学年で実施した。家庭・地域と連携し差別事象や人権について考え、差別を受けたゲストティーチャーに直接指導を受けることで、児童は差別を自分事として受け止め、差別解消に向けた意欲や態度を高めた。 ・異学年活動で、自分や仲間の良さ、がんばりを伝え、認め合うことで、良好な人間関係を築くことができた。また、人間関係トラブルを早期解決し、該当児童の大半が明るい姿を取り戻している。 ・課題をもつ児童への対応は多くの人員が必要であり、限られた指導者でどう指導体制をつくるかが今後の課題である。
新潟	十日町市立下条中学校	「気づき 考え 行動する生徒の育成」に向けて ～新保広大寺節伝統継承活動の実践を通じて～	本研究題目「気づき 考え 行動する生徒の育成」に向けて～新保広大寺節伝承継承活動の実践を通して～について、令和7年3月18日(火)に令和6年度1年生による新保広大寺節発表会が行われた。発表会後の生徒の振り返りには「何事にも挑戦する心」「忍耐力」「周りを見る力」を身につけたという言葉があり、この取組が自己肯定感の高める有意義な発表会であると改めて実感した。そして、参観した小学校6年生も「来年は自分たちが地域の伝統を守りたい」という強い郷土愛が感じられ、キャリアを育む発表会であった。今後、少子化などによる学区再編の問題があったとしても、子供を育てる地域の伝統的な取組は、何かしらの形で持続してほしいと思う。
新潟	新潟市立新津第一中学校	ALTとのコミュニケーションが創るよりよいチームティーチング ～ALTの視点で見る日本人教師の課題～	本研究において、ALTとのチームティーチングをよりよいものにするためには日本人教師の「授業力」と「コミュニケーション力」を高める必要があるとわかった。この結果を受けて、貴校ではALTと担当教師の授業の打ち合わせを綿密に行うように心がけている。 ALTのスケジュール管理をしている私は、出勤日とその日の授業クラス、担当教師を表にまとめ英語科とALTで共有している。ALTの方から授業で行う活動についての相談をしてくれることもあり、スムーズに授業に参加できている。今後も日本人教師の授業力とコミュニケーション力を磨き、ALTとの授業を充実したものにしていきたい。

令和6年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
富山	射水市立小杉中学校	自他の人権を大切にできる豊かな人間性を持った生徒の育成 ～生徒会活動と学級活動での実践を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の人権を大切にできる生徒の育成を目指して、生徒会活動や学級活動を通して実践した。</li> <li>・生徒会活動では、SDGsに関連した公約を盛り込んだ活動を軸に、委員会活動を実施した。学級活動では、生徒の個性の伸長を目指して、学級環境を整えることやソーシャルスキルトレーニング等によって、人権意識を高められるようにした。</li> <li>・実践の成果を確認するために実施したアンケートでは、人権に対する意識や考えについて、変化が「とてもあった、少しあった」と答えた生徒が全体の76%であり、全体の4分の3を超えた。活動によって、多くの生徒の人権意識や人権感覚に変化があったことが分かり、一定の成果がでたと考えている。今後も実践を継続していく予定である。</li> </ul>
長野	佐久市立岩村田小学校	子どもと共に創り上げる社会科学習を目指して ～子どもの意識から単元の山場を見据える～	<p>【主要な研究成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が惚れ込んだ素材だからこそ、子どもたちも次第に自分事としながら追求していく姿につながっていったのではないかと。また、単元の山場となる場面を見極める教材研究をした上で単元構想したことで、子どもたちの意識にできる限り沿いながら学習を展開していくことにつながったのではないかと。</li> <li>・毎時間子どもたちの本当に考えていきたい問い(子どもたちの思考のずれ)を教師が見極め、課題として据えることができていたのかをもう一度考え直す必要がある。そのためには、子ども一人ひとりの捉えをさらに明らかにしておくべきだった。</li> <li>・単元の山場となった第8時では、子どもたちと味わうべき事実(中心資料)とは何だったのか考え直したい。また、終末に願う子どもの姿をさらに明確にしておきべきだった。</li> </ul>
長野	高森町立高森南小学校	小学生が調べ、広げ、繋ぎ、守る満蒙開拓の記憶 ～ウクライナ侵攻と満州開拓慰霊碑からの学びをPCでデータ作成・プレゼンで発信～	<p>【主要な研究成果】</p> <p>中学へ進学して1年半が経った。担任だった自分も暫定再任用を続け毎年転任し、隣町に勤務している。その夏、飯田市で行われた信州戦争展に行ってみた。彼らは、「満州開拓慰霊碑から学んだもの」と題し、何十人もの前でプレゼンテーションをしていた。夏休み中のことで部活動などがなかったメンバーが、中学校長の勧めで発表を決めたとのことだった。6年生時に作成した資料を手直しし、リハーサルをして臨んだそうだ。「小学校で自分たちが調べたことが、また多くの人に知らせてよかった。」「10月に今度は2年生全員で『満蒙開拓平和記念館』に行くので、もう一度学べるのが楽しみ。」と話していた。一過性のものではなく、児童生徒たちの心に深く根付き、その後も成長を続けていることを知ることができた。</p>
岐阜	羽島市立竹鼻中学校	タイムパフォーマンスを重視した職員研修による資質向上の一考察 ～「教頭報」を活用した職員研修を通して～	<p>本研究における成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の研修を効率よく進めるための内容を精選することができた。</li> <li>・研修内容を言語化することにより、各職員が求める時間に研修することができた。</li> <li>・必要に応じた研修を選択して行うことができるようになったため、経験年数に応じた研修や、本人が求める(自己課題に応じた)研修が可能となった。</li> <li>・研修を企画する側、研修を受講する側の双方が、短い時間で分かりやすく伝えようとし、内容を深化・統合することができた。</li> </ul> <p>以上のことから、教員がスキルを高めていく一方途としての「研修」をタイムパフォーマンスよく行うことができた。</p>
愛知	豊橋市立中部中学校	当事者意識をもって自ら考え、他者と語り合いながら新たな価値をつくりだす生徒の育成 ～制服のあり方を見直す活動を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちが、私服登校日での経験、制服検討実行委員が調べた制服についてのさまざまな情報などをもとに、よりよい学校にするために今後の制服のあり方を考えることができた。</li> <li>・全校制服検討会議では、生徒たちが、「未来の生徒のために制服の困り感を解決するべき。」「今までの伝統を守ることも重要だと思う。」などと多様な視点から意見を語り合うことができた。そして、話し合いの結果、新たな制服を導入することが決定した。</li> <li>・導入が決まり、制服検討実行委員が今後の制服をどうするべきかを考え始めた。今後も生徒主体で、さまざまな意見を大切にしながら、生徒らの困り感が解決されるように議論を重ね、制服のあり方を考えていく。</li> </ul>
兵庫	たつの市立龍野東中学校	DX実現のためのICT力強化 ～地区で高め合うICT利活用力～	<p>主要な研究成果</p> <p>研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小中学校訪問を通じて、ICT活用の現状や課題を把握し、本校の取組を地域に広げる方針を確立した。</li> <li>・公開授業・公開講座を実施し、ICTを活用した授業実践の共有と、教員の意識改革を促進した。</li> <li>・教師・生徒ともにICT活用の意識が向上し、ChromebookやGoogle Classroomの活用が定着した。</li> </ul> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的にICTを活用できる環境をさらに整備する。</li> <li>・教師間のICT活用の差を縮め、効果的な指導方法を確立する。</li> <li>・学校・地域全体で、ICTを最適に活用する段階へ移行し、継続的な支援体制を構築する。</li> </ul>

令和6年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
鳥取	鳥取大学附属特別支援学校	社会とのつながりを意識した知的障がい特別支援学校高等部における作業学習での取り組み ～青年期の「自分づくり」を通して～	主要な研究成果 本校が大切にしている「自分づくり」を基盤とした実践は、生徒たちのやってみようという内発的な思いを出発点としている。不安や自信のなさを抱えている生徒たちだが、生徒たちの心の奥にある挑戦したい気持ちや憧れを引き出すことに努めた。本稿で紹介したリーダー的存在であった3年生は陶芸への興味をもち続け、卒業後も陶芸の先生の窯元に行き学んだり、後輩たちの販売活動を手伝いに来てくれたりしている。新年度になり「ものづくり班」のメンバーが変わっても、先輩たちの思いを基に、新たな場所で販売活動をやってみる、新製品を開発してみる等、生徒たちの挑戦を支援し、青年期の「自分づくり」を実現できるよう日々の実践に取り組んでいる。
岡山	倉敷市立工業高等学校	夜間定時制工業高校における探究活動とものづくりの実践 ～生徒の自己肯定感育成と学校広報～	1. 研究の成果 ・生徒たちはPBL活動として、様々なサイズやデザインの指輪製作に、旋盤や手仕上げの技術を活用して、熱心に取り組んだ。 ・ものづくりの価値を実感したいとの思いから企画した販売会では、自分の作品を自分の手で販売することにより、作品製作への驚きや感動の声を直接聞くことができ、生徒は自らの学びに自信を持つことができた。  2. 今後の課題と展望 ・作品の販売価格の設定に際しては、作品の付加価値をどのように価格に反映するのか、生徒の学びとして考えていきたい。 ・今年度は学校としてこの取り組みをさらに深め、さらなる地域認知度向上と生徒の自己肯定感育成を目指して、次のイベント計画を進行させている。
山口	山口市立宮野小学校	運動の楽しさを味わい、自ら進んで体力向上を図る児童の育成 ～「つながり」を重視した体育科学習指導を通して～	<成果> ・主体的に課題解決を図る場や状況を豊富に設定することで、チームで協力して「できた」をめざすことができた。特に、進んで運動の行い方のポイントや気付きを伝え合ったり、友達のよさを交流したりするなど、児童同士で協力して運動する姿が多く見られた。 ・実生活へのつながりを保障することで、児童は、体育科の授業以外の運動に目を向けてたくさんの取組を考え実践し、体力向上にもつながった。  <課題> ・実践後も体力の二極化や得意な児童と苦手な児童の意欲や技能の差が少なからずある。全ての児童が運動の楽しさを継続的に味わい、自ら体力を向上するために、中学校や家庭・地域とのつながりにも着目した実践を行うことも必要であると感じた。
山口	下関市立文洋中学校	探究を中心とした中学校理科の授業実践 ～「発見考図鑑」プロジェクトを通して～	成果(○)と課題(●) ○「発見考図鑑プロジェクト」と称した生徒主体の探究的な学びを通して、検証可能な仮説を設定する力や観察・実験を実行する力の向上が見られた。また、1年間のプロジェクトで起こる様々な生徒の学びをエピソードとしてまとめることで、教員の生徒を見取る力が向上した。 ●年間の探究学習を実践したのは今年度が初めてである。そのため、同時多発的に起こる生徒の学びや気づきを科学的な探究のスキルと紐づけたり、周囲の生徒へと広げたりする支援が不足していた。個別に起こる偶発的な生徒の学びを教員がいかに関与や周囲の生徒と有機的に結び付けられるかが今後の課題である。
長崎	長崎県立佐世保商業高等学校	商業教育に関する部活動が生徒の資質・能力の育成に果たす役割 ～教育課程外活動で「社会に開かれた学校」を実現する～	研究の成果 ・部活動が生徒「佐商力(社会人基礎力を基にした本校が生徒に身に付けさせたい資質・能力)」の育成に大きく貢献していることを確認できた。 ・商業クラブの活動を通じて、地域社会との連携を深め、生徒がリアルなビジネスの現場で経験を積む機会を提供することができた。 ・教育課程と部活動が連携することで、生徒の実践的な学びが深化し、専門性や社会性が向上した。 ・外部からの多様な依頼(商品開発、イベント企画など)を通じて、地域における部活動の存在価値を実証できた。 今後の課題 ・部活動の成果をさらに教育課程へ還元する仕組みの構築すること。 ・持続可能な部活動運営体制の確立と地域連携の強化を図る。
長崎	長崎県立佐世保商業高等学校	論理的文章の構成を速く読み取り、図表と相互に関連付けて解釈することを旨とした授業実践	(1)研究の成果 ・小学校・中学校の教科書を分析することによって、学習指導要領では見えなかった実際の学習内容が把握できた。 ・高校3年間で付けさせたい力を考える際に、小・中での学びを踏まえることができるようになった。 ・共通テストの新出問題を意識した指導方法について模索、実践できた。 (2)今後の課題 ・令和7年1月に実施された共通テスト問題を分析した際、実施した授業実践では不足する部分が見えたので、そこをどう補填するかを考えたい。 ・単年度の実践だったので、3年間のスパンで考えた際、どのように実践していくか、系統立てて計画を立てる必要がある。 ・この実践で、小・中・高の学びの連続性や、他教科との関連や違いを意識できるようになったので、現勤校におけるカリキュラムマネジメントに活かし、次年度実践する。

令和6年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
宮崎	門川町立草川小学校	英語を用いて自分の思いや考えを主体的に伝え合う学習指導の在り方 ～ICT(思考ツール)を効果的に活用した「中間指導」を通して～	<p>○研究の成果 「英語を上手く話せなかった」児童から出された課題をもとに、「中間指導」(英語を聞いたり話したりする言語活動を児童同士で行わせた上で、一旦活動を止め、必要な指導を全体や個別で行い、言いたい英語を言えるように指導すること)において、目的に応じたICT(思考ツール「マッピング」「Yチャート」)を活用し指導と評価を行ったことで、93.4%及び98.4%の児童が「英語を用いて思いや考えを上手く話せるようになった」と実感できるようになった。故に、ICT(思考ツール)を活用した本研究の仮説は成立できたと言える。</p> <p>○今後の課題 数名の児童については、ICT(思考ツール)の効果的な活用に加えて、中間指導(特に個別)の在り方についても具体的に見直し、さらに充実させながら今後も継続的に指導をしていく必要がある。</p>
鹿児島	南さつま市立万世小学校	Evidence Based Approach(EBA)による個別最適化 ～環境・時間・認知の構造化による学び～	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試行錯誤学習やS-R理論によって望ましい行動を強化することができた。その結果、教師の指示的な言葉掛けと助言的な言葉掛けが減少し、受容的な言葉掛けが増加した。</li> <li>・ 時間と場と認知の構造化を図り、学習過程の個別最適化を図ったことで、子供からの自発的質問、学習活動に取り組む時間が増加した。</li> <li>・ Evidence(科学的根拠)に基づいたアセスメント・目標設定・環境調整・ケースワークの関わりによる連動によって、子供たちの学習参加と主体的・自発的な学びの実現できた。</li> </ul> <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更に人数の多い集団へ適用でき得る可能性があるが、通常の学級ではまだ行っていない。</li> <li>・ 同学年・近似発達段階集団においては、より協働的な学び合いにもつながる余地があると考えられるが、集団への検証にまだ至っていない。</li> </ul>
鹿児島	薩摩川内市立東郷学園義務教育学校	真正の学びを創造するカリキュラムの展開 ～課題設定の工夫と外部人材活用を通して～	<p>1)成果</p> <p>ア 現実の地域社会へ参画している実感を得ることができるパフォーマンス課題を設定することが、住民自治に参画しようとする力の育成に対して有効であることを確認することができた。真正な場面設定が生徒に実際に住民自治に参画しているという実感を与えることにつながった。</p> <p>イ 地域のGTと協働し、真正性をより高めた学習を行うことが、探究的な学びにおける課題設定において有効であることを確認することができた。地域と関わりが深い本校の特色を生かした実践を創造することができた。</p> <p>(2)課題</p> <p>ア パフォーマンス課題が学習にもたらした真正性の効果を確認することができたことから、同様の課題設定を行う機会をより増やしていくことが求められる。また、学習評価の在り方についても考えていく必要がある。パフォーマンス評価の活用を含め、今後検討していきたい。</p> <p>イ GT活用が真正の学びをもたらすためには、GTを積極的に活用し、活動が学習を超えた価値を持つことを意識させるだけではなく、GTの役割や話す内容等について、生徒が真正さを感じるように調整することが必要である。GTとの連携のあり方について、今後検討する必要がある。</p>

令和6年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
神奈川県	神奈川県小学校教育研究会	基礎基本を身につけ、自ら学び、他者と協働し、心豊かに生きる子どもの育成をめざした小学校教育の創造	今年度も中央研究大会の開催と、各地区・各部会の研究活動の円滑な実施に向けて、定例会で情報共有と協議を重ね、それぞれの研究活動を実施することができた。中央研究大会横浜大会では、神奈川県立音楽堂を全体会場に、みなとみらい本町小学校を分科会会場とし、県下22地区、20研究部会からの代表約800名が参加した。記念講演では、文部科学省・田村学主任視学官と慶応義塾大学・鹿毛雅治教授の対話から、子ども主体の授業や直接体験の意義など、改めて考える機会となった。分科会では、担当地区各研究部会の実践発表をもとに熱心な協議が展開された。大会内容は研究集録にまとめ、本会ホームページで全会員が共有できるようにした。今後も子どもたちの学びに直結する研究推進のため、Webシステムの改善等が望まれる。
新潟県	新潟県学校体育研究連合会	個別最適かつ協働的な学習により主体的・対話的で深い学びを生む体育・保健体育授業の在り方	研究の成果と課題 1、令和6年12月の全県研修(オンライン開催)では日本学体連参与吉野聡茨城大学教授を講師に迎え、全県から100名以上が参加し、授業づくりの視点から「個別最適かつ協働的な学び」について理解を深め、授業づくりのための研鑽を積むことができた。 2、令和6年11月山口県で開催された全国学校体育研究大会に当団体から10名参加し、学習指導要領を具現化した授業を参観し、令和8年度の新潟大会開催に向けて、目指すべき授業を検証することができた。 3、令和6年度新潟県体力テスト(小学1年～中学3年対象)における「運動やスポーツが好き」の回答割合が57.8%、「体育の授業は楽しいですか」は58%と決して高い数値とは言えない。より多くの児童生徒が「運動が好き、体育の授業が楽しい」と感じ、生涯にわたって自ら運動に親しむように導いていけるように、会員1人1人が今後も指導力を高めていくことが重要である。
新潟県	北新体育学習研究会	自ら学び、自ら運動する子どもを育てる体育授業の創造	【研究の成果】 ・やってみる『習得』、ふかめる『活用』、ひろげる『探究』の学習過程に基づき、子どもの向上欲求に沿った単元構成を工夫することは、「自ら学び、自ら運動する子ども」を育てるうえで以下の点において有効であった。 ①子どもの学習意欲や目的意識を持続させること。 ②仲間と協力しながら、新しい知識を発見したり新たな方向性を見出したりすること。 ・体育授業の質的向上のための取組は、会員の日々の体育授業の実践において役立っていることが明らかになった。 【今後の課題】 ・20代の若手教師が体育授業に困難さや悩みを抱えている現状がある。要因は以下の2点と考える。 ①若手教師が抱える困難さや悩みに応じきれていないこと。 ②若手教師と先輩教師との関わりが希薄になり、先輩教師の体育授業に関する指導法や知識・技能を伝達する機会が十分でないこと。 ・若手教師の体育授業に関する困難さや悩みに先輩教師が寄り添い、自身がもつ経験や知識・技能に基づいた助言をする機会をさらに充実させていく必要がある。
新潟県	柏崎市・刈羽郡中学校教育研究会	深い学びにいたる授業～活用を意図した単元構成により、学びをつなげる生徒の育成～	【研究の成果】 ・既習事項の活用を意図した「逆向き設計」による単元構成により、知識のつながりを意識しながら新たな課題に挑戦する姿が見られた。 ・「振り返りシート」を用いることで、獲得した知識や技能を活用する姿が習慣化され、学びをつなぐ意識が高まった。 ・「ICT機器の活用」において、記録をいつでも何度でも確認できる環境を整えることにより、生徒自らが学びをつなげる一助となった。 【研究の課題】 ・iPadによるアプリ等の操作や振り返りの記録等、時間を要する場面があり、習慣化を図る必要がある。 ・学びをつなげる手段としてワークシートが有効であった。しかし、結果のまとめ方や考察に深まりが生まれる形式等、さらに検討が必要である。
新潟県	長岡市・三島郡中学校教育研究会	自らの不安や悩みに向き合い、課題を解決する力を育てる心の健康教育～「SOSの出し方に関する授業」の実践を通して～	成果 ○参考書籍「子供に伝えたい自殺予防～学校における自殺予防教育導入の手引き～」(平成26年 文部科学省)、「新潟県自殺予防教育プログラム(小中学校編)」(令和4年 新潟県教育委員会)の内容を自校化し、中学校3年間の系統立てた実践モデルを提示できた。複数校で実践やプレ授業を重ね、実際の生徒の反応を見ながら校内体制や指導案を練り上げていくことで、より実態に合った研究内容とすることができた。 ○令和5年度に文部科学省から「児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知)」が発出されており、時機を得た研究テーマであったと考える。今後は、本研究での成果を各校で充実させていきたい。

令和6年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
愛知	西春日井地区小中学校校務主任会	自分事として危機管理のできる児童生徒の育成 ～身の回りの危険に気付き、考え、行動させるための仕掛けづくりを通して～	<p>主要な研究成果</p> <p>1 研究の成果 児童生徒に身の回りにおけるさまざまな危険やトラブルを自分事として捉えさせるには、児童生徒が自ら気付いたり、自分たちで対策を考えたりすることができるような教師の働きかけが重要である。そのきっかけとなる仕掛けづくりは、自分事として危機管理のできる児童生徒の育成をするために重要であると言える。</p> <p>2 今後の課題 継続的に、児童生徒に、気付き、考え、行動させる機会を与えていくことが必要となる。そのためには、職員の意識を高め、共通理解を図り、多くの職員で仕掛けをつくっていくことが大切である。 また、学校間のつながりを大切に、情報を共有して、どの学校でも、どの分野においても、仕掛けの方法が蓄積されるよう、校務主任の連携を強めていきたい。</p>
兵庫	神戸教育研究所	生徒が主役の三者懇談会のススメ ～学修インタビューの取組～	<p>&lt;生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や担任と具体的な目標を共有することで、それに向かって努力する道筋を確認できた。</li> <li>教員や仲間との対話、またリハーサルを重ねることで、自分の考えや意見を明確に伝えるスキルを高め、コミュニケーション力が向上した。</li> </ul> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長や直面している課題について知ることができることで、必要なサポートを差し伸べることができた。</li> <li>保護者と学校が同じベクトルに向かって子どもの進路を支えることができた。</li> </ul> <p>&lt;学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のあり方生き方を理解したうえで、現在の学習状況、興味・関心、悩みなどを把握でき、一人一人に対するきめ細やかな指導につながった。</li> <li>生徒や保護者とのコミュニケーションが深まり、信頼関係を構築でき、生徒の教育に対する理解を得やすくなった。</li> </ul>